



— 第3次 —  
久万高原町  
総合計画

— ∞ —  
2026 ▶ 2035

森と人が編む、恵みの環（わ）

— ウッドスクエア久万高原 —





森と人が編む、  
真みの環(わ)  
- ウッドスクエアス万高原 -

多様な働きかたへの対応

未来づくりワークショップ

農業の可能性拡大

木から生まれるエネルギー

スマート農業

広域連携

地域運営協議会

ウッドバレース万高原

木にこだわったものづくり

700名外チーム

商店街のにぎわい

「やりたい」をいごとに

安全安心暮らし

関係人口の創り出

子育て支援

持続可能な暮らし

英語特化の学び

地元学

地域共生社会

スホッソ合宿 大会の誘致

小さな木下村塾  
(ス万高原版 STEAM塾)



# 目次

第1章 序論.....	1
1 計画策定の背景と目的.....	2
2 計画の期間と構成.....	3
3 計画をつくりあげる体制.....	4
4 計画を育てる.....	5
5 久万高原町のプロフィール.....	6
6 まちの人口について.....	7
7 まちの産業について.....	8
8 行財政について.....	9
9 まちに対する住民の声.....	10
10 社会情勢について.....	15
11 久万高原町に必要なこと.....	16
12 久万高原町の将来推計人口.....	17
第2章 基本構想.....	19
1 目指す将来像.....	20
2 5つの大樹（たいじゅ）の物語.....	22
3 施策の目指す姿.....	23
4 久万高原町の目標人口.....	26
5 体系図.....	28
第3章 基本計画.....	29
築（きずく）.....	30
栄（さかえる）.....	40
栞（しおり）.....	56
植（うえる）.....	70
構（かまえる）.....	86
資料編.....	107
SDGsと施策の関連.....	108
久万高原町総合計画審議会.....	110



The background of the entire page is a close-up photograph of a tree's bark. The bark is highly textured, showing deep vertical and horizontal cracks, and a layered, scaly appearance. The colors range from light tan to dark brown, with some reddish-brown patches. The lighting is natural, highlighting the rough surface.

# 第1章 序論

# 1

## 計画策定の背景と目的

やまあいを渡る風は、季節ごとに色を変えながら、このまちの時間を刻んできました。

木々のささやき、川のせせらぎ、土を耕す鋤の音。久万高原町の一日は、自然と人との営みがゆるやかに重なりながら始まります。かつて先人たちは、この土地に根を張り、森とともに生きる知恵を育んできました。今もその記憶は、森の奥に、里の暮らしの中に、静かに息づいています。

けれど、時代は変わり、人口減少や気候変動、デジタル化の波など、私たちを取り巻く課題は複雑に絡みあい、これまでの延長では答えを見つけにくい時代となりました。だからこそいま一度、足もとにある恵みを見つめ直し、もう一度「自分たちの生き方を編み直す」ことが求められています。

「久万高原町総合計画」は、このまちの未来を形づくるための最上位計画であり、「第3次久万高原町総合計画」（以下、「本計画」という。）は、この先10年間の道しるべとなるものです。

まちのすべての分野の施策を結びあわせ、森と人、人と人とのつながりを確かにしながら歩いていく。単に事業を並べるのではなく、「どう生きたいか」「どうありたいか」という問いを、住民一人ひとりと共有しながら、まちづくりの方向をともに描いていく。それが、総合計画の根っこにある想いです。

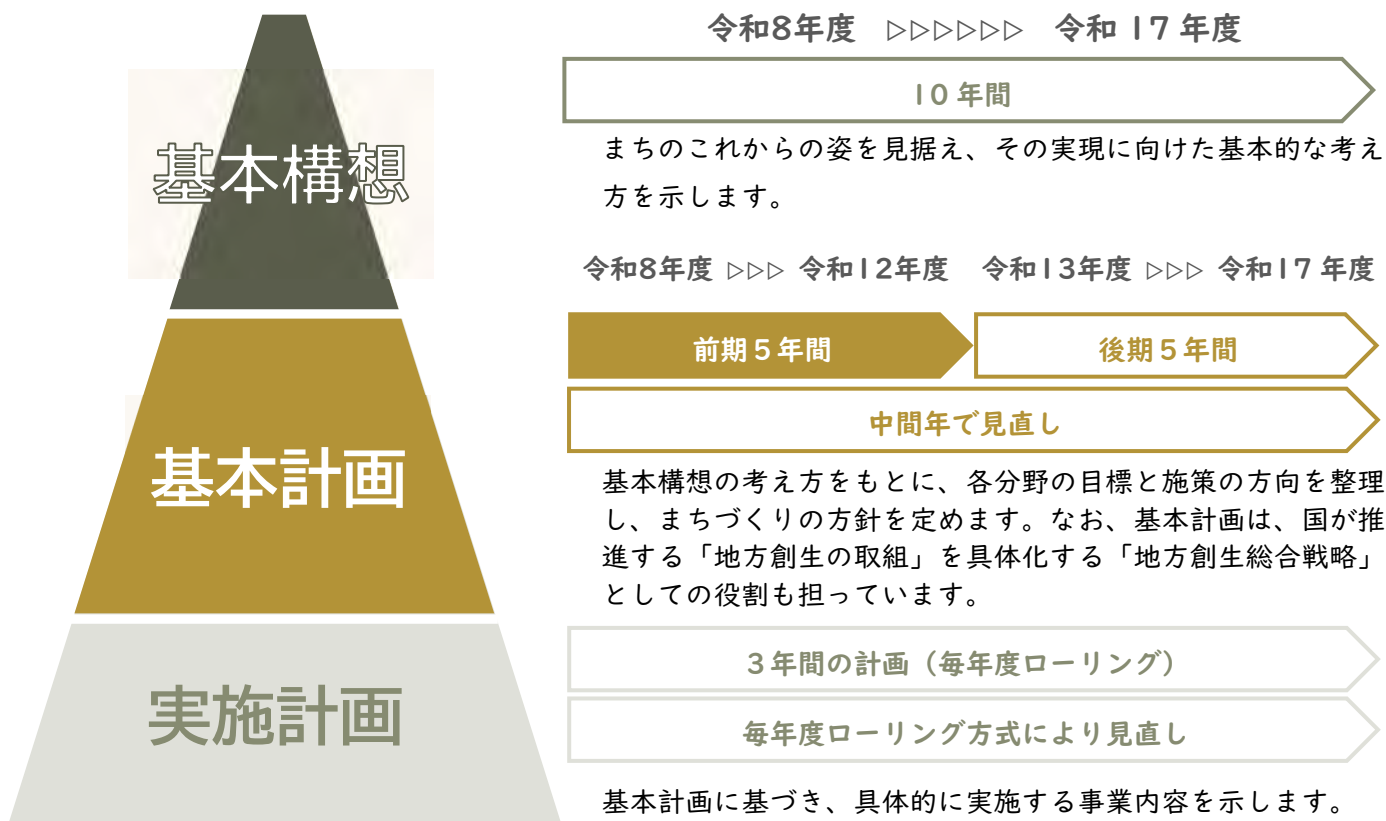
本計画を通じて、久万高原町は、自らの足で立ち、森と人、人と人が支えあいながら、静かに、そして確かに、営みを次の世代へと受け継いでいきます。



# 2 計画の期間と構成

本計画の期間は、令和8年度から令和17年度までの10年間です。この10年間で、まちのこれまでの歩みを見つめ直し、次の世代へとつなぐための時間として位置づけています。

基本計画は、前期（令和8～12年度）と後期（令和13～17年度）に分かれており、社会情勢の変化やまちの実情に応じて、必要に応じた見直しを行います。変化する時代の中で、まちが確かな方向性を持ち、しなやかに成長していくための道のりとして、本計画を進めていきます。



また、土地利用における総合計画の「都市計画マスタープラン・立地適正化計画」、住民の安全・安心のために策定する「国土強靱化地域計画」など、本計画を最上位計画として、これらの計画及び個別計画と十分に整合と調和を図り、まちとして一体的な施策を推進します。

加えて、本計画を推進することで、SDGsの達成を図るため、SDGsの視点を各施策に盛り込むこととします。

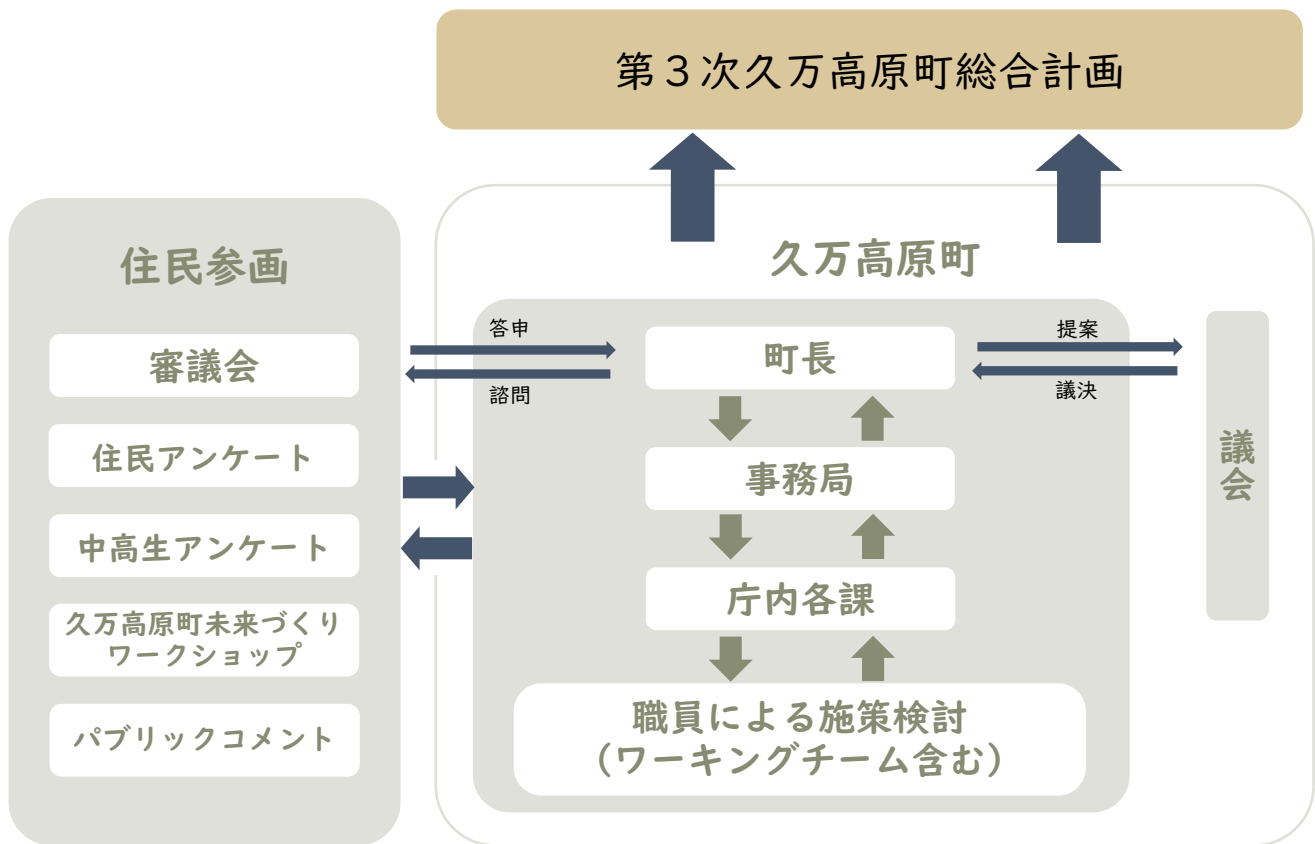
# 3

## 計画をつくりあげる体制

まちの未来を描くのは、一人の力ではありません。役場職員も、地域で活動する人も、学校の子どもたちも、それぞれの想いをもち寄りながら、この計画は形づくられました。

久万高原町では、久万高原町総合計画・総合戦略策定審議会を中心に、住民や学識経験者、各団体の代表が集い、まちの将来を議論しました。また、各分野を担う職員が庁内で横断的に協議し、現場から生まれる課題や知恵を計画に反映しています。

計画をつくることは、終わりではなく始まりです。これからも、住民と行政が同じ方向を見つめながら、学びあい、語りあい、行動を重ねていく。そんな「住民自ら未来を生み出す場づくり」を、久万高原町のまちづくりの文化として育てていきます。



### 久万高原町未来づくりワークショップ

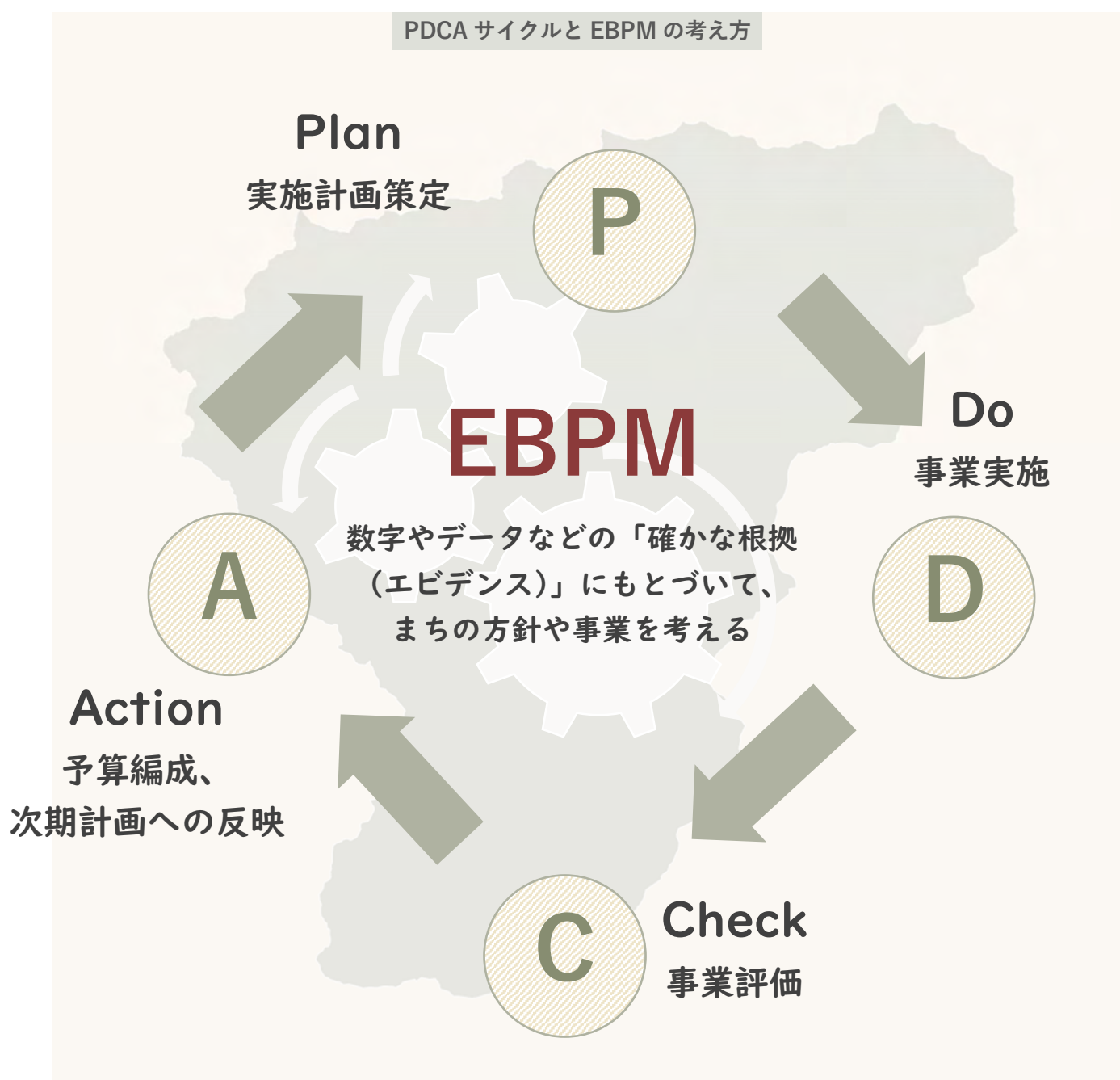


子どもから大人まで幅広い世代が参加する久万高原町未来づくりワークショップは、「このまちにどんな未来を残したいか」を語りあう場として毎年度継続的に開催することで、語りあいの中から生まれる小さな気づきやアイデアを、次の一年、そして次の世代へとつなげていきます。

# 4 計画を育てる

計画は、立てて終わりではなく、町とともに育っていくものです。社会の変化や町の状況を見つめ直しながら、実行・検証・改善を重ねることで、計画はより良い姿へと成長し続けます。

久万高原町では、PDCAサイクル（計画・実行・検証・改善）を基本とし、その一つひとつの段階で、根拠に基づいて考え、行動し、振り返る視点＝EBPM（Evidence Based Policy Making）を重ねます。サイクルの中心にあるEBPMは、計画の立案から実行、検証、改善のすべての過程で、判断のよりどころとなる考え方です。数字やデータだけでなく、住民の声、地域での経験、職員の気づきを大切にしながら、「なぜこの取組が必要か」「どうすればより良くできるか」を丁寧にみつめ直します。



# 5

## 久万高原町のプロフィール

久万高原町は、四国山地の中心に広がる中山間地のまちです。

山や溪谷に寄り添うように人々の暮らしが営まれ、農林業を中心とした「自然とともにある生活」が今も息づいています。町の至るところに、清らかな水や深い森、四季折々の風景といった、日本の原風景が残されています。

この自然の恵みとともに、住民同士が顔の見える関係を築き、支えあいながらまちを守ってきました。人口減少対策や災害対策など地域の課題に対し、地域運営協議会などの取組を通じてつながりを強めてきたことは、久万高原町の何よりの力です。

また、三坂道路の開通や松山外環状道路の整備により、

松山空港から約1時間で往来できるようになりました。都市との距離が近づいたことで、産業・観光・移住などの面で新しい交流が生まれています。

四国カルスト、石鎚山、面河溪など、雄大な自然が育む観光資源に加え、大寶寺・岩屋寺といった霊場や、上黒岩岩陰遺跡、美術館・山岳博物館・天体観測館など、文化と自然が調和した魅力が息づいています。

このまちの風景は、自然と人がともに守り、受け継いできたものです。

これからも、その手のぬくもりを重ねながら、久万高原町の暮らしを育てていきます。



# 6

## まちの人口について

### 総人口

10年で約1,700人減少

総人口

6,744人



人が減り、まちの力が弱まりつつある。だからこそ、残る人の力をつないでいこう。

住民基本台帳（令和7年9月末時点）

### 高齢化

10年前から約3ポイント増

高齢化率

50.4%

後期  
高齢化率

31.8%

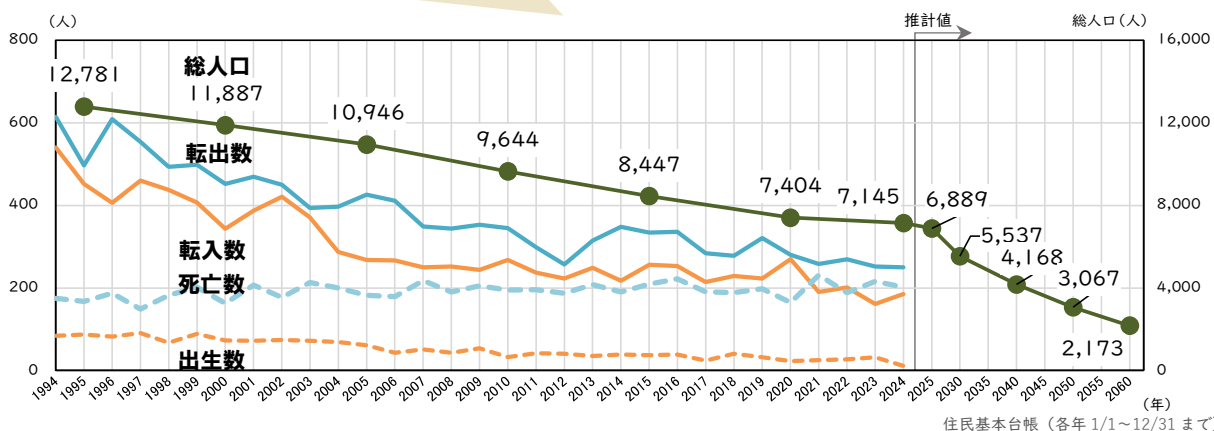


地域を支えているのは、高齢者を含む一人ひとりの力。各年代の「できること」を結集するまちへ。

住民基本台帳（令和7年1月1日時点）

### 人口動態

令和6（2024）年は191人の自然減、65人の社会減



- 久万高原町では、人口減少と高齢化が同時に進行しており、生まれてくる赤ちゃんの数も少なくなり、集落を守る人が減ってきました。このままでは、まちの元気がどんどん弱まってしまいます。
- けれど、町にはまだ、たくさんの知恵や技、思いやりがあります。外から人を呼ぶだけでなく、今ここにいる人の力をもう一度見つめ直すことが大切です。
- これからは、「人を増やす」よりも「人を生かす」まちへ。世代を越えて支えあい、子どもも大人も、お年寄りも、誰もが主役になれるまちをみんなでつくっていきましょう。

# 7

## まちの産業について

### 産業分類別就業人口

第1次産業	960人	10年前と比べて 121人減
第2次産業	490人	10年前と比べて 127人減
第3次産業	2,070人	10年前と比べて 226人減



どの産業も人が減り、地域を支える働き手が足りない。だからこそ、仕事の魅力を見直し、若い世代を呼び戻そう。

国勢調査（令和2年）

### 中高生の町内での就労意向

町外での就職希望がほとんど

# 12.5%

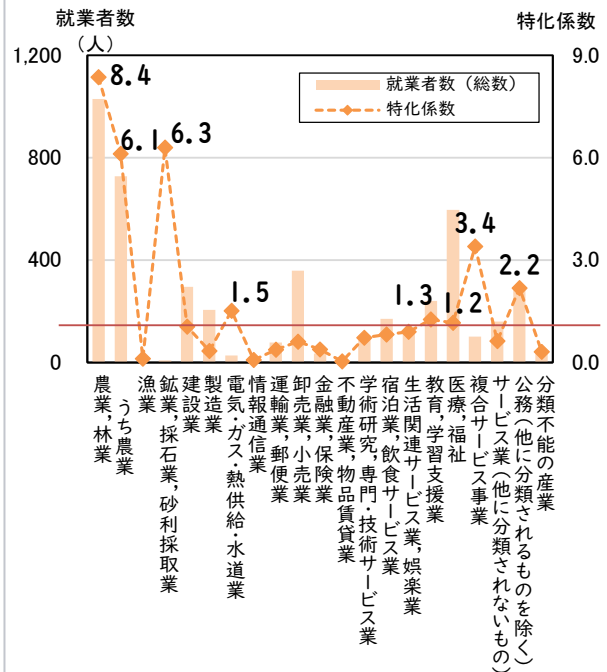


将来、町で働きたいと思う子どもはわずか1割。だからこそ、「働きたいと思える町」を一緒につくろう。

中高生「将来働きたいと思ったとき、仕事は久万高原町の中で見つけたい（町内または町外居住）」と回答した人の合計

### 久万高原町の産業の強み

#### 圧倒的農業・林業



全国と比べた産業の「得意分野」を示す特化係数は、農林業において全国平均の8倍の規模。だからこそ、この強みを生かし、次の時代の産業へつなげたい。

国勢調査（令和2年）

- どの仕事の分野でも働き手が減っています。農林業は町の誇りですが、働く人の多くが高齢になりました。若い人の多くは「町外で働きたい」と思っています。
- けれど、町の中には仕事のタネがたくさんあります。例えば、水道の修理、雪かき、買い物の手伝い。こうした身近な困りごとを町の仕事に変えることで、お金も人も町の中をめぐることができます。
- 町の強みである農林業を新しい形に育て、観光やデジタルの力を借りながら、「働きたい」と思えるまちにしていくことが大切です。

# 8

## 行財政について

### 経常収支比率

10年前から7.2ポイント増

# 88.4%



使える財源のうち、人件費や扶助費など固定費が占める割合がほとんど。だからこそ、限られた資源を賢く使い、未来へ投資を。

### 協働のまちづくりの必要性

住民と行政で役割分担して進めるべき

# 60.4%



まちづくりは、行政だけでも住民だけでも成り立たない。だからこそ、ともに考え、ともに動く仕組みを広げよう。

住民「住民と行政が適切な役割分担を協議し、進めていくべき」と回答した人の合計

### まちの取組に対する住民の評価と期待

#### 評価されているもの

- 上下水道や生活環境
- 防災・消防・交通安全
- 学校給食



安心して暮らせる日常の基盤は、しっかり整っている。一方で、生活に欠かせない「移動」と「医療」、そして「にぎわい」への期待が強い。だからこそ、暮らしを支えるサービスを、町のカで守っていこう。

#### 今後、充実への期待が大きいもの

- 公共交通
- 地域医療
- 商工観光



住民「まちづくりの取組全38項目」のうち、満足度の高い取組上位3つと満足度の低い取組下位3つ

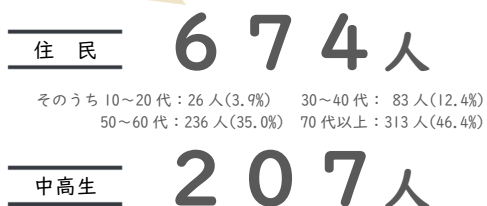
- 久万高原町の財政は、自由に使えるお金は限られています。それでも、防災や上下水道、学校給食など、町の安心を支える取組は、住民からの満足度も高く着実に続けられています。
- 一方で、公共交通や地域医療、商工観光など、「もう少し頑張ってほしい」という分野もあります。限られた財源の中で、何を優先して取り組むかを、行政と住民と一緒に考えていくことが大切です。
- これからの行財政運営では、EBPM（根拠に基づく政策づくり）の考え方が欠かせません。行政と住民が役割を分けあい、データや現場の声をしっかり見つけ、選択と集中を進めながら、限られた資源を最も効果的に使っていくことが求められています。

# 9

## まちに対する住民の声

### どんな人の声？

アンケートへのご協力ありがとうございました



### 住みやすさ

「住みよい」と感じている



住民「住みよい+まあまあ住みよい」  
中高生「とても住みよい+どちらかといえば住みよい」と回答した人の合計

### まちへの愛着

「自分のまち」としての愛着を感じている



住民「大いに感じている+愛着をやや感じている」  
中高生「とても愛着がある+まあまあ愛着を感じている」と回答した人の合計

中高生が思う／

### 久万高原町の自慢できるもの

自然や文化が多い

美しい自然環境  
農林業などの自然を生かした産業  
伝統文化や祭り

中高生アンケート

### 定住意向

住民は半数以上、中高生は1割満たない



住民「現在お住いの地域に住み続けたい」  
中高生「10年後どこに住んでいたいかで久万高原町内」と回答した人の合計

住民が思う／

### 住まい選びで重視すること

利便性や安全性を求めている

日常的な買い物の利便性  
医療・福祉施設等の利便性  
防災に対する安全性

中高生アンケート

住民が思う／

### こういう特色のまちにしてほしい

医療・福祉、自然、農林業がキーワード

人にやさしい福祉・保健・医療の充実したまち  
水や緑を大切にする自然環境を保全するまち  
農林業を中心として発展するまち

住民アンケート



## 未来づくりワークショップ 地区別編



- まちづくりの主役は住民
- これからの地方は、「地域の中で、人・モノ・資金・情報が循環し価値を生み続ける仕組み（＝地域版エコシステム）」を目指す
- 久万高原町には、地域課題をビジネスチャンスとして、地域で課題に取り組む事業者（＝ローカル・ゼブラ企業）が必要

未来をつくる問い

久万高原町にある資源をたくさん教えてください

コト	ヒト	モノ
<p><b>四季のおまつり</b> さくらまつり、ひなまつり、落出のこいのぼりなど</p> <p><b>暮らしの行事</b> 地方祭、夕涼み大会、納涼まつり、面河ダム祭り、秋祭りなど</p> <p><b>伝統芸能や文化活動</b> 川瀬歌舞伎、獅子舞、五神たいこ、おもごいしづち天狗太鼓、八かま竜神たいこなど</p> <p><b>イベント</b> 林業まつり、石鎚山ヒルクライム、スタンプラリー、合格ウォーキング、面河ダムの草刈り、くだもの狩り、カルストフェスティバル(再開願う) など</p> <p><b>地域づくり活動</b> ハーバルライフ、中津結の会、竹灯籠、きずな会ひまわり、ふる里村、きずなアート、地元産フルーツ加工など</p>	<p><b>農林業や特産品の生産者</b> トマト、ピーマン、紅茶、花桃や花の世話、猟師、林業従事者など</p> <p><b>地域の発展に寄与する人</b> 地域おこし協力隊、集落支援員、役場職員など</p> <p><b>地域活動のキーパーソン</b> コミュニティナース、地域リーダー、ボランティア活動参加者、きずなマート、怪力の〇〇さん、盛り上げ役の〇〇さんなど</p> <p><b>文化施設や交流関係者</b> 文化施設の学芸員、上高生、お店や農林業きっかけの移住者、お遍路接待など</p> <p><b>地域の職人やアーティスト</b> 木地師、彫刻家、革職人など</p>	<p><b>自然・景観</b> 石鎚山 (1,982m)、四国カルスト、面河溪谷、面河ダム (四季彩橋)、八釜の甌穴群、父二峰の桜街道、三坂峠、星空、ほたる、タカネリクワガタなど</p> <p><b>食</b> 高原野菜、清流米、トマト、ピーマン、もち麦 (仕七川)、お茶・紅茶など</p> <p><b>拠点や施設</b> 道の駅、まちなか交流館、久万の3館 (天台・美術館・博物館)、図書館、モルゲン、チャムなど</p> <p><b>文化資産・名所</b> 大寶寺・岩屋寺、上黒岩岩陰遺跡、神社、純信さんのお墓など</p> <p><b>未利用・再生のモノ</b> 休耕田・荒れた農地、森林鉄道跡、林道、空き町営住宅、町内の廃校など</p>



- 地区別編では、まちづくりの主役は住民ということで、これからのまちづくりを自分事として考え、行政とともに未来をつくるために「皆さんの力を貸してください」という導入から始まりました。
- コト・ヒト・モノで分けると、久万高原町を象徴する資源からコアな資源まで幅広く未来づくりにつながる各地区の資源を出してもらうことができました。
- 参加者の心にある「なにもない・できない」を、今あるものの大切さや尊さを再確認し「未来につなげていきたい」という前向きな思いへと変える第一歩になりました。

## 未来づくりワークショップ 産業編



- 久万高原町の産業の課題を共有
- これからの地方は、「地域版エコシステム」を目指す
- 久万高原町には、ローカル・ゼブラ企業が必要
- 課題解決のために、久万高原町は国の交付金を取りに行く

未来をつくる問い 久万高原町の産業の課題を解決するためには？

### 農業

●●●課題●●●

担い手・後継者不足、耕作放棄地の増加が深刻

▶▶解決策◀◀

集積と設備更新で、稼げる農業へ



『ライスセンター、ピーマン・トマト選果場の更新を町で行えば、選果料・使用料が不要になり、収入アップにつながるのでは』

### 林業

●●●課題●●●

高齢化と採算低下が進行

▶▶解決策◀◀

ブランド化と商流強化でもうかる林業へ



『久万材のブランド化を進め、物流・商流や不動産まで一体的に扱うとりまとめ役（商社機能）の確立により、採算性の向上が期待できるのでは』

### 商工業

●●●課題●●●

人材・後継者不足で地域経済の循環が滞り気味

▶▶解決策◀◀

町内人材のマッチングや小さな仕事の可視化で、「できる人が、つながる町」へ



『町内の困りごとは町内の業者に頼むなど、町内での「できる」を集約したプラットフォームのようなものがあれば、商工業が潤うのでは』

### 観光

●●●課題●●●

資源は豊かでも、稼ぐ仕組みが弱く、滞在が短い

▶▶解決策◀◀

交通・宿泊・食の整備と発信力を高め、「訪れるから、関わるへ」つなげる観光へ



『旗振り役である観光協会をDMO化し、効果的なPRや受入体制の整備、観光事業者の連携・スキルアップ、観光人材の確保などに取り組んでみては』

- 産業編では、農業・林業・商工業・観光それぞれの分野で課題となっていることを洗い出し、他分野と共有することで、人材不足や収益性の確保といった共通の課題から、耕作放棄地や林業への興味・関心の薄れ、町内事業者の認知度、観光客の受入体制（二次交通、宿泊、団体対応）といった分野ごとに異なる実情も明らかになりました。
- これらの課題は、それぞれの産業が個別に抱える問題ではなく、地域全体の産業循環や暮らしに直結するテーマであることが共有され、久万高原ならではの産業の未来像を描くための手がかりが得られました。



## 未来づくりワークショップ 子育て支援者編

- 久万高原町の子どもの数はこの10年で大きく減少しており（令和6年は10人台）、こどもが減るということは、地域の未来が消えるということ
- 久万高原町の子どもはなぜ減ったのか、子育て支援者が感じた理由を共有

### 未来をつくる問い

子どもの人口減少対策として

行政・地域・我々（子育て支援者）がすべきこと・できること

### なぜ減った？

- ①進学先の不安
- ②仕事の選択肢不足
- ③子育て環境の不安（医療面の不安やこの町の子育ての良さを感じられない）
- ④人口減少の影響
- ⑤結婚や家庭に対する価値観の変化



### 行政への期待

#### 教育に関すること

学校再編と廃校の利活用（合宿・民泊等）、上高の特色を生かした専門教育など

#### 産業に関すること

林業・加工分野の専門職育成、上高を軸とした林業・木材産業の人材育成、「地域で働き続けられる」環境づくりなど

#### 暮らし全体に関すること

住宅整備や空き家活用、移住促進、ベッドタウン化の仕組み、結婚支援、大企業サテライト誘致、地元企業支援など

#### 子育て環境に関すること

専門医や緊急時に対応できる医療体制の確保、「助けてほしい・助けてあげたい」をつなぐ仕組みづくり（支援コーディネート）など

#### 交通・移動支援に関すること

部活動の移動手段確保、スクールバスの充実、冬期の安全確保（スタッドレスタイヤ補助等）など

### 地域の役割

#### あたたかい地域づくり

よそものをあたたかく受け入れる姿勢、若者を大切に育てる風土づくり、住民自身が楽しむ姿を若い世代に見せる

#### 地域で子どもを支える仕組みづくり

助けてほしい／助けてあげたいをつなぐ場（仕組み）を地域でも担う、地域の人が関わられる機会や関わりしるの創出

#### 子ども・若者の活動を支える環境づくり

部活やクラブの地域指導力の充実、木育など地域らしい子どものイベントの復活、ファミリーサポートの充実

### 子育て関係者の視点

#### 保護者や地域を巻き込む

保護者を巻き込む活動、子育て世代のコミュニティづくり、地域コミュニティの維持や中高生の居場所づくり

#### 子どもの主体性を育てる

子どもに本物のビジネスをさせる（プロ監修）

#### 子どもの「体験」や「発見」を育む

久万高原町の自然の豊かさや魅力を子ども自身が感じる機会づくり

#### 家庭・家族を大切にする

家庭を大切にする意識をまず支援者自身が示す、子どもが「帰りたい」と思える家族の絆づくりを支える

- 子育て支援者編では、子どもの減少というまち全体の課題に対し、背景の整理と、行政・地域・子育て支援者がすべきこと・できることについて意見交換を深めました。
- 子どもの減少はまちの将来に直結する重要課題ですが、今回の議論を通じて、教育や医療などの基盤整備だけでなく、地域ぐるみのあたたかな関わりや、子どもが自ら育つ機会づくりなど、多角的な視点が整理され、町の将来像を描く上で大切にすべき視点が得られました。
- 子どもをまんなかに、まちの大人たちがつながりあうことで、久万高原町の未来を支えるための新たな歩みが始まっています。

## 未来づくりワークショップ 若者（上浮穴高校）編



- 今、久万高原町では、まちの生き残りをかけて真剣に議論が行われている
- 昨年（令和6年）の出生数は11人、みんなはどう思う？



未来をつくる問い

10年後の久万高原町はどうなってほしい？  
そうなるためにどうしたらいい？

### 10年後のまちの姿とそのために

#### 若い世代が増え、にぎわいのあるまち

- 「10歳～20歳がもっと増えてほしい」
- 「若者が増え、にぎやかになってほしい」
- 「今の小学生が10年後もこの町に住みたいと思えるまちにしてほしい」

▶▶ミライのためには◀◀

- 若者が楽しめる場所やイベントをつくる
- PR動画やSNS、ポスターなどで久万高原町の魅力を発信する
- 移住しても不便じゃないことをアピールし、住む家や働く場を整える など

#### 交通の便がよく、行き来しやすいまち

- 「バスの便を増やしてほしい」
- 「松山との行き来がしやすくなってほしい」
- 「交通の便をよくして、いろいろなところに行きやすくしてほしい」

▶▶ミライのためには◀◀

- 町営バスやJR・伊予鉄バスの便数を増やす、バス停を増やす
- 松山行き以外の移動手段の確立や、レンタル自転車などの新しい交通手段を検討する
- 学校・病院・商業施設と結ぶ路線を整え、日常の移動の負担を減らす など

#### 自然や農林業を生かした、久万高原らしいまち

- 「今ある良い景色やきれいな夜空、豊かな自然を残してほしい」
- 「今よりも農林業が盛んになってほしい」
- 「久万高原と言えば○○」という特産品やシンボルがほしい」

▶▶ミライのためには◀◀

- 自然を生かした体験（キャンプ、森のアスレチック、川遊びなど）を整備する
- 久万材や農産物を使った商品やメニューをつくり、地産地消と観光を結びつける
- SNS等で自然や特産品の魅力を発信し、「久万ならではのもの」の認知度を高める など

#### 買い物や遊び場があり、暮らしが不便すぎないまち

- 「百貨がほしい。本屋がほしい。小さくてもいいからショッピングモールや遊び場ができてほしい」
- 「久万高原ならではの木材を使った飲食店や施設があってほしい」

▶▶ミライのためには◀◀

- 空き家や土地を活用して、小さなカフェや駄菓子屋、若者が集まれるお店をつくる
- 久万高原らしさ（木材や特産品）と組み合わせた店舗づくりを進める など

#### 子育てがしやすく全世代が過ごしやすいまち

- 「安心して子育てができる場所にしてほしい」
- 「公園や児童館など、小さな子どもたちが遊べる場所があったらいいと思う」
- 「幅広い世代の人々が笑顔で暮らせる場所になってほしい」

▶▶ミライのためには◀◀

- 公園や水遊び、アスレチックなどの遊び場を整備する
- 子どもや保護者が交流できる場所、居場所づくり（中高生のたまり場など）を進める
- 保育施設や子育て支援を充実させる など

#### 住む場所と働く場所がそろい、暮らしが続けられるまち

- 「空き家がなく、人が大勢集まる町になってほしい」
- 「たくさんの若い人たちがさまざまな仕事を受け継いで、今ある仕事を継続させている」

▶▶ミライのためには◀◀

- 空き家を整備・活用して、若い世代や移住者が住みやすい住宅を確保する
- 農林業や福祉、観光、商業など、久万高原ならではの仕事を知らせ・体験できる機会を増やす
- 働く場と住む場をセットで考え、「久万でもやっていける」と思える選択肢を広げる など

- 若者（上浮穴高校）編では、久万高原町の現状と生き残りをかけた姿勢を共有し、若者が描く10年後のまちの姿と「そのミライのためには？」を話しあいました。
- 参加してくれた高校生からは、若者が増えてほしい・人口が減らないまちを描く生徒が最も多く、そのほか買い物や交通の便利さ、子育てや過ごしやすさ、自然や農林業の価値、住む場所と働く場所の確保など、暮らしのあらゆる願いが挙げられました
- 若者の描いたミライに応えるために、久万高原町は次の10年への確かな一歩を踏み出します。

# 10 社会情勢について

## 人口減少・少子高齢化

出生数の減少と高齢化の進行により、労働力不足や経済縮小が懸念され、持続可能な地域社会の構築が求められています。

## 自然災害への備え

災害の激甚化や多様化に備え、行政と地域が連携した防災・減災、危機管理体制の強化が必要です。

## 環境保全・脱炭素

温暖化対策と再生可能エネルギーの導入を進め、2050年カーボンニュートラルの実現を目指すことが重要です。

## 交流人口の拡大

観光や交流を通じて訪れる人を増やし、地域経済や文化の活性化につなげることが求められています。

## 関係人口の拡大

移住に限らず、地域と継続的に関わる人を増やし、多様な担い手づくりや地域の活力向上を図ります。

## 技術の進化

AIやIoTなどデジタル技術の進展により Society5.0 への移行が進む中、新技術を生かした課題解決とルール整備が求められます。

## 価値観・ライフスタイルの多様化

物の豊かさから心の豊かさを重視する傾向が強まり、多様な生き方を尊重する社会づくりが重要です。

## 世界情勢の変化

新興国の台頭や紛争による影響が広がる中、エネルギーや食料などの安全保障を確保する取組が必要です。

## 子どもを取り巻く環境の変化

こども家庭庁が設立され、「こどもまんなか社会」の実現を目指し、教育・福祉・地域が連携した支援体制の整備が進められています。

## 地方創生 2.0

人口減少を前提に、地域資源や関係人口を生かした自立・分散型社会の実現と、持続可能な好循環の創出が求められています。

- 第2次久万高原町総合計画策定以降、社会は驚くほどの速さで変わりました。人口構造や価値観、技術、世界情勢など、どれもが転換期を迎えており、まちづくりにおいてもこれらの情勢を踏まえた新たな視点が求められています。

# 11 久万高原町に必要なこと

日本全体が急激な人口減少と高齢化に直面し、久万高原町もその大きなうねりに飲み込まれようとしています。しかし私たちは、この困難をただ受け入れるのではなく、これまで2期にわたって総合計画・総合戦略を着実に進め、抗い、挑み、ひたむきに未来を切り拓くためのまちづくり基盤を築き上げてきました。

これからのまちづくりは、外部の支援や偶然の追い風だけに頼る時代ではありません。地域に暮らす人々の叡智がまちの繁栄を左右する、「地方の知恵比べ」の時代が訪れています。

この流れに対し本計画では、『久万高原町未来づくりワークショップ』をはじめとする住民との対話の場を重ね、「町の中から、もう一度熱を起すこと」を共通認識として歩み始めました。今こそ、行政と住民が正面から向きあい、声を交わし、自分たちの手で未来への道しるべを描くときです。

行政と住民双方が、今一度久万高原町の真の強みを見つめ直し、我がまちの置かれている状況を知り、「自分たちにできることは何か」を探求し続けることが重要です。

- 四国山地の奥深く、標高1,000m級の山々が連なる地に湧く清冽な水と豊かな森
- その環境下で育まれた高品質な木材や農産物
- 森と人により編みこまれてきた歴史・文化的資源
- この地で高原生活を営んできた住民の知恵や息づかい



これらはすべて、先人たちが未来への希望の種として大切に植え育ててきた資源であり、この強みこそが、久万高原町の成長を可能にする原動力です。

そして今、久万高原町にはこれらの資源だけでなく、農家・林業者に加え、地域おこし協力隊、コミュニティナース、地域リーダー、地域を支えるボランティア、職人、文化施設の学芸員など「町の魅力をつくる人」が幅広く存在しています。

地域資源が豊富にそろそろ今こそ、もう一度力強く確認したいことがあります。



**地域のことは地域でやる**（＝ローカル・ゼブラ企業の視点）

**地域の中でヒト・モノ・カネを循環させる**（＝地域版エコシステムの視点）

**自分たちの手でムーブメントを起す**

これらは、久万高原町がこれからの10年間で必ず取り組むべき核となる考え方です。

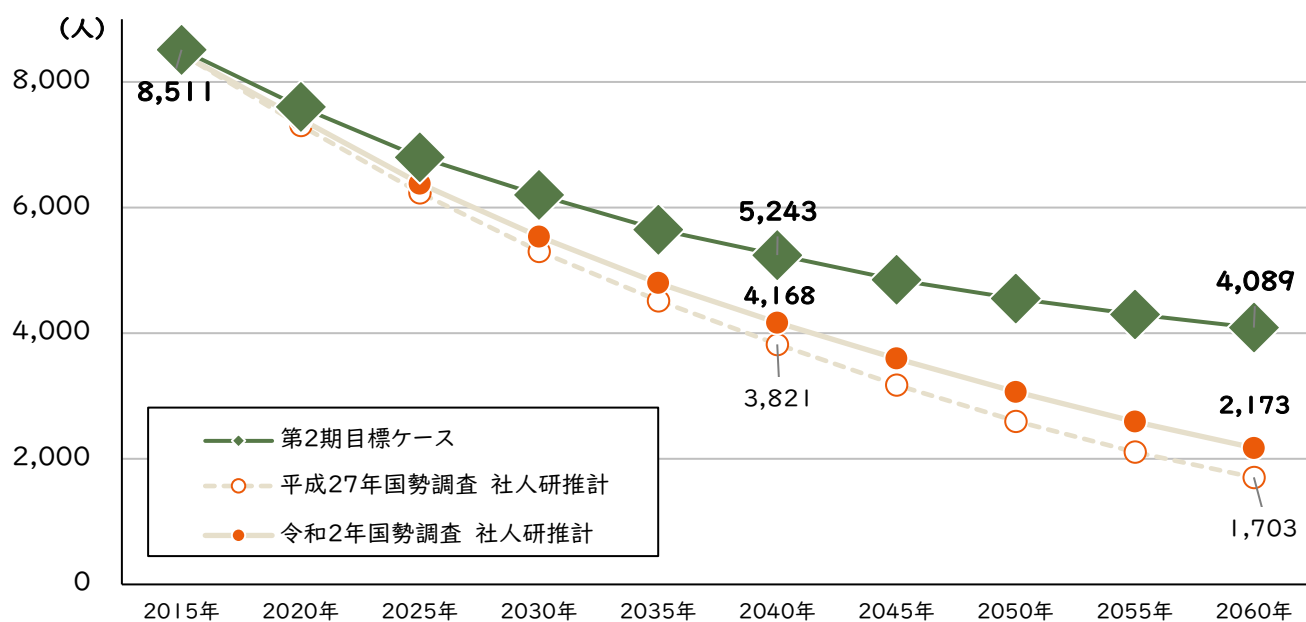
人口減少の波にただ立ち尽くすのではなく、「町の中から灯した小さな熱を、大きな未来の力へと変えていく覚悟と行動」こそ、久万高原町がこれからの時代を生き抜くために最も必要なものです。

# 12 久万高原町の将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）によると、平成 27（2015）年と令和 2（2020）年に実施された国勢調査の結果をベースに久万高原町の人口を推計すると、令和 42（2060）年の総人口はそれぞれ、平成 27（2015）年では 1,703 人、令和 2（2020）年では 2,173 人と推計されています。

なお、前回の人口ビジョンでは、令和 42（2060）年の目標総人口は 4,089 人となっています。

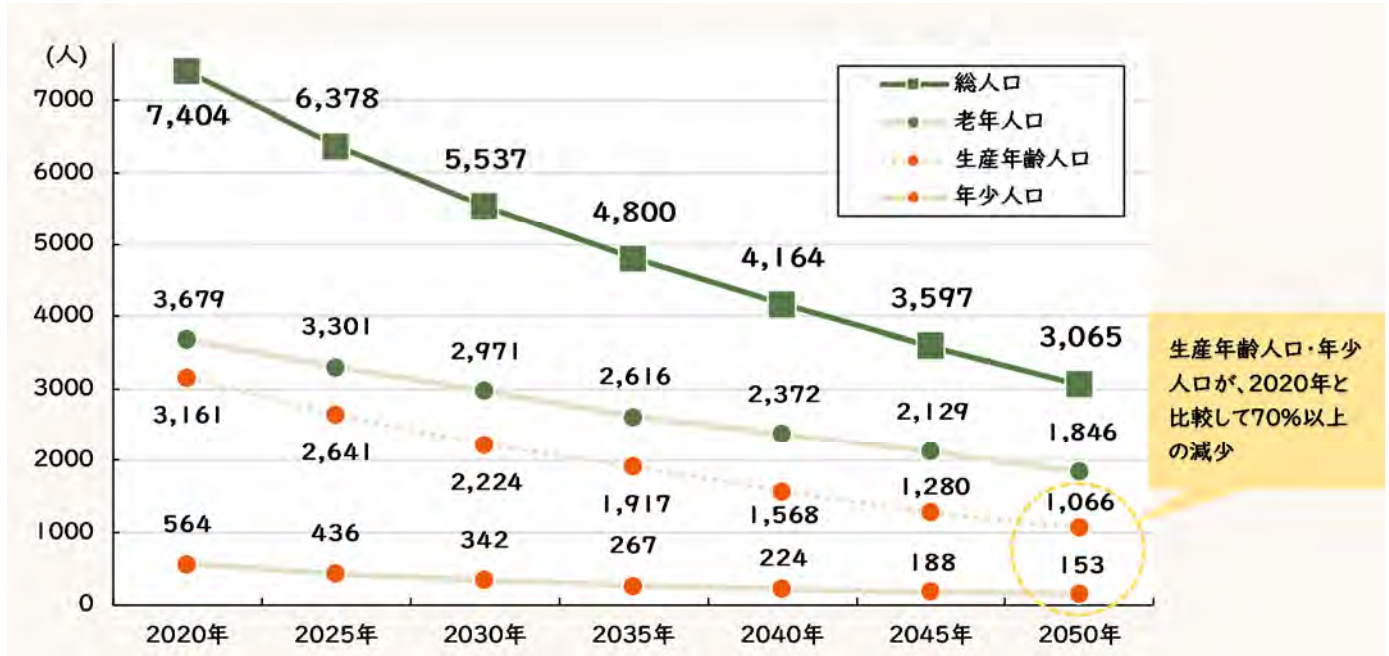
人口推計の比較



【出典】社人研、第2期久万高原町人口ビジョン（令和3年3月）

社人研による令和2（2020）年国勢調査の結果をベースとした人口推計を見ると、人口減少段階は「第3段階」に入り、本格的な人口減少が予測されます。また、令和2（2020）年と令和32（2050）年との比較では、老年人口（65歳以上）は約5割減少、生産年齢人口（15～64歳）と年少人口（14歳以下）は約7割の減少となっており、深刻な人口減少の状態となっています。

人口減少段階の分析（令和2年国調ベースの社人研推計）



【出典】社人研


【注記】端数処理のため前ページの人口と一致しない場合あり

人口減少段階

	令和2 (2020)年	令和32 (2050)年	2020年を100とした 場合の2050年の指数	人口減少段階
老年人口	3,679人	1,846人	50.2	3
生産年齢人口	3,161人	1,066人	33.7	
年少人口	564人	153人	27.1	

人口減少段階

- 第1段階：老年人口増加、生産年齢・年少人口減少
- 第2段階：老年人口維持・微減（減少率0%以上10%未満）、生産年齢・年少人口減少
- 第3段階：老年人口減少、生産年齢・年少人口減少



# 第2章

## 基本構想

# 1

## 目指す将来像

### 森と人が編む、恵みの環 — ウッドスクエア久万高原 —

久万高原町は、森に生かされ、木に守られてきたまちです。

木を伐り、木を使い、木とともに暮らす。冬は薪のぬくもりに身を寄せ、春は畑に芽吹く苗に希望を見つけ、夏の陽ざしの中で汗を流し、秋の実りをともに喜ぶ。そんな日々の積み重ねが、このまちを育ててきました。

そして森はまた、風や雪、土砂を防ぎ、清らかな水を育み、人々の暮らしを支える「守りの森」でもあります。人は森を整え、森は人の暮らしを守る。この相互の関わりこそ、久万高原町のいのちの循環です。その営みの一つひとつが、誰かの支えにより成り立ち、世代を越えて人から人へと受け継がれてきました。

私たちは、この森と人、人と人の重なりやつながりを「**編む**」という言葉に託しました。

「編む」とは、糸や木、草などを手で組み合わせることで、多様な素材を生かしながら、やわらかくも確かな形をつくっていく。それはまさに、農や林業、ものづくり、教育、福祉など、異なる分野が支えあって生きる久万高原町の姿そのものです。

私たちが目指す「**恵みの環（わ）**」は、森と人が互いに育みあい、恵みをめぐらせる循環です。そこでは、自然の力と人の知恵が交わり、暮らしと産業、地域と地域、過去と未来がゆるやかに結ばれていく姿を目指しています。

これまで町は、受け継がれてきた久万材などの林業、高原野菜や久万高原清流米などの農業とともに、森と歩む強い一次産業の土台を築き上げてきました。いま、その確かな基盤の上で、地域材を活用したものづくりや西日本最高峰・石鎚山系をめぐる持続可能な観光などを重ね、森と人、産業がともに輝く舞台を整えている、まさに、その最中です。

私たちは、地域資源の価値を極限まで高め、次世代へと受け継ぐこの壮大な舞台づくりへの挑戦を「**ウッドスクエア久万高原**」に込めて、未来への確かな意思を全国に、そして世界に発信する合言葉として、これからの10年間を照らしていきます。

森と人が結びあい、育みあう暮らしの中で、

恵みの環(わ)を広げ、この久万高原町の未来を編みこんでいきます。

— ウッドスクエア久万高原 —

# ウッドスクエア久万高原について

## スクエア構想とは？

スクエア構想とは、地域の強みや資源を分野横断で束ね、まち全体として一貫したブランドと戦略をつくり上げる考え方です。これは事業を縦割りで積み上げるのではなく、産業・環境・技術・交流・暮らしなどを同じ方向に整える（=square with：一致させる）ことで、地域の価値を最大化する枠組みです。

スクエア（Square）には

面として束ねる（=四角形の枠組みをつくる）

調和・整合する（=square with：一致する、噛みあう）

掛け合わせて力を増幅する（=2乗の square）

といった概念が含まれており、分散しがちな地域資源を「一つの世界観で再編集する地域戦略」として活用されます。

## ウッドスクエア久万高原とは？

久万高原町は、久万町・面河村・美川村・柳谷村という、それぞれ異なる歴史と暮らしを持つ4つの地域が一つになって生まれた町です。町域が広く、これまで旧町村単位での取組が重ねられてきましたが、さまざまな価値観や課題が交錯する時代だからこそ、私たちは、「久万高原町」として何を軸に、何を残していくのかを、改めて問い直す必要があります。

久万高原町が選んだ軸は、「木（ウッド）」です。これは、森とともに生き、木を使い、育て、次の世代へ手渡してきたこのまちの営みそのものです。

ウッドスクエア久万高原」は、旧町村という単位を超え、5つのウッド〇〇を土台に、一つのスクエア（久万高原）として歩いていくことを目指します。

### ◆ウッドスクエア久万高原の概念



※5つのウッド〇〇は、今後取組や事業名レベルで活用していきます。

# 2 5つの大樹（たいじゅ）の物語

「ウッドスクエア久万高原」は、森と人がつくる恵みの循環（エコシステム）です。その循環を支え未来へとつないでいくのが、「5つの大樹」の物語です。一本一本の大樹には、それぞれの根があり、枝があり、育てる人の想いがあります。

本計画では、それらが編み合わさり、久万高原という森を育てていく物語を描きます。



この「5つの大樹」が根を張り、幹を伸ばし、枝を広げ、互いに支えあうことで、久万高原という森は息づいており、その重なりとつながりの中にこそ、「恵みの環（わ）」の姿があります。

## まちづくり体制の基礎をつくる

人と人、部署と部署をつなぐ土台は、森の根のように見えないところでまちを支えます。行政の仕組みやDX、広報・広聴は、信頼の根っこを張り巡らせ、どんな風にも倒れない町を育てます。

## 地域の方で糧と誇りをつくり出す

林業や農業、商工や観光は、この町を潤す実りの枝葉。森の恵みを生かし、働く人の誇りと暮らしの糧を生み出し続けることで、地域経済は大きく枝を広げていきます。林業は、町を守る根幹であると同時に、繁栄の果実を実らせる二重の顔を持っています。

## 人生のページに そっと寄り添う

人生にはさまざまな季節があり、医療や福祉、子育てや高齢者支援は、一人ひとりのページに寄り添う安心と支えあいのおりとなります。誰もが自分らしく生きられることが、町の物語を豊かにしていきます。

## 暮らしを守り、有事に備える

災害や危機に揺らぐことのない町であるために、環境保安や交通、防災の仕組みをしっかりと構えることが必要です。森の中で風雪に耐える大木のように、町全体を包み込む強さとしなやかさを備えます。

## まちを未来につなぐ人を育てる

学校教育や生涯学習、文化や人権への取組は、未来を担う人を育てる種まきです。学びを重ね、芽吹いた若木がやがて森となり、次の世代に受け継がれていきます。

きずく  
**築**

さかえる  
**栄**

かまえる  
**構**

森と人が編む、恵みの環（わ）  
—ウッドスクエア久万高原—

しおり  
**栞**

うえる  
**植**

# 3

## 施策の目指す姿



### まちづくり体制の基礎をつくる

行財政運営	広域行政	DX
限られた人材と財源を力に変え、組織を磨き、人を育て、施設を生かしながら、住民とともに未来を切り拓く「持続可能な行政経営」へと高めていきます。	松山圏域との連携を深め、山間地域ならではの個性を広域の力に変え、都市とともに未来を築きます。	業務の効率化にとどまらず、産業や暮らし、外と人をつなぎ直す「ひらかれた久万高原町」への原動力としてDXを推進します。
広報・広聴	コミュニティ	
住民の声が届き、住民に伝わる広報・広聴を通じて、住民とともに久万高原町の未来を切り拓きます。	地域運営協議会の設立や活動を支えながら、世代を超えて誰もが自然に関われるコミュニティを育み、町全体にあたたかなつながりを広げていきます。	



### 地域の力で糧と誇りをつくり出す

農業振興	農業基盤整備	林業
久万高原町の農業を、次の世代に確かな形で受け継ぎながら、新たな挑戦によって付加価値を高め、誇りを持って「続けたい」と思える営みへと育てていきます。	老朽化した施設を計画的に整備し、省力化と防災機能を高めながら、未来の世代も安心して営農を続けられる農業の土台を築きます。	森を守り、育て、生かす力を循環させ、仕事や暮らしへとつなぎながら、人と森がともに生きる林業を育み続けます。
商工	観光	
町の素材や人の力を生かし、挑戦やつながりを支えながら、日常のにぎわいと久万高原らしい「しごと」の形をつくり出します。	自然や文化を磨き、人の誇りと来訪者の感動をつなげながら、季節を問わずにぎわいが循環する持続可能な観光を育みます。	



## 人生のページにそっと寄り添う

### 地域医療

医療・介護・福祉が連携し、限られた資源を補いあいながら、住民が安心して暮らせる地域医療体制をつくります。

### 地域福祉

顔の見えるつながりを生かし、住民が互いに支えあい、助けあいを促進し、誰もが住み慣れた土地で安心して暮らせる地域共生社会をつくります。

### 子育て支援

子どもを産み育てる喜びを、町みんなで分かちあえるように。お年寄りも若者も地域の人と一緒にあって、子育て世代に寄り添い、安心して子どもを育てられるまちをつくります。

### 高齢者支援

誰もが歳を重ねても「ここで暮らしてよかった」と思えるように。地域の人と人が支えあい、高齢者が安心して暮らせるまちをつくります。

### 障がい者支援

困ったときに「助けて」と言え、周りから「大丈夫、支えるよ」と声が届くこと。そんな日常を広げ、障がいのある人もない人も、一緒にこの町で生きていける地域をつくります。

### 健康づくり

健康づくりをまちの未来への投資とし、みんなが笑顔で生きるまちをつくります。



## まちを未来につなぐ人を育てる

### 学校教育

小規模校の強みを生かしつつ、学びの保障と支援を充実させ、地域とともに子どもたちの未来を育みます。

### 学校給食

安全でおいしい給食を基盤に、町の食育をさらに広げていきます。

### 生涯学習

学びを通じて人をつなぎ、地域の誇りと未来を育む生涯学習を進めます。

### スポーツ・レクリエーション

身近にスポーツを楽しめる環境を守り、町の自然や文化を生かしたプログラムを広げ、誰もが安心して体を動かせるまちをつくります。

### 文化（財）活動

町に息づく文化財や郷土芸能を守り育て、住民と来訪者が誇りを共有できる文化活動を広げます。

### 人権の尊重

すべての人が尊重され、安心して自分らしく生きられるまちを、人権教育と啓発の両輪で実現します。

### 男女共同参画

男女がともに尊重され、家庭・地域・職場のあらゆる場面で自分らしく活躍できるまちを目指します。



# 暮らしを守り、有事に備える

<b>環境美化・保全</b>	<b>再生可能エネルギー</b>	<b>移住・定住・関係人口増進</b>
川と山の自然を守り、住民が誇れる美しい環境を次世代へ引き継ぎます。	エネルギーの地産地消や省エネルギーの推進を図ることで、住民一人ひとりの生活の質が向上し、豊かに暮らすことのできる快適なまちづくりを目指します。	町の魅力や産業と結びついた移住・定住の流れを育み、自然とともに生きる豊かな暮らしと人の循環を広げます。
<b>公共交通・地域交通</b>	<b>道路</b>	<b>生活環境</b>
町の実情に即した交通体系を再編し、デマンド型やデジタル活用を取り入れながら、高齢者や免許返納者を含め、誰もが安心して暮らせる移動環境を実現します。	町内外を安全・快適に移動できる道路環境を確保し、住民の安心した暮らしと交流人口の拡大につなげます。	ごみを減らし、分けて生かす取組を広げることで、清潔で住みよいまちをつくりまします。
<b>上下水道</b>	<b>土地利用・住宅・公園</b>	
施設の長寿命化と耐震化を計画的に進め、効率的な維持管理と健全な経営を重ねながら、将来にわたって町のみんが安心して水を使い続けられる環境を守ります。	都市計画マスタープランや立地適正化計画に沿って土地や建物を効率的に活用し、町営住宅の適正管理、空き家の解消と利活用、公園の適切な維持管理を進めながら、安心して暮らし続けられる生活環境を守ります。	
<b>防災・消防・救急</b>	<b>交通安全・防犯</b>	
住民と行政が力を合わせ、災害や事故から命と暮らしを守り、安心して暮らせる体制を整えます。	交通事故のない安全な道と、犯罪に強い地域づくりを進め、住民が安心して暮らせるまちを目指します。	



久万高原町は、基幹産業である林業の力を最大限に生かした、農林商工観光が深く連携する複合的な地域産業クラスター<sup>※1</sup>を築き上げることにより、資源、資金、人材が循環する持続可能な地域エコシステムを創造し、未来にわたり人々の営みを支えます。

住民と行政が同じ方向を見つめながら、学びあい、語りあい、行動を重ねて、強い経済・豊かな生活環境・選ばれる地方を目指す。そんな「住民自ら未来を生み出す場づくり」を、久万高原町のまちづくりの文化として育てていきます。

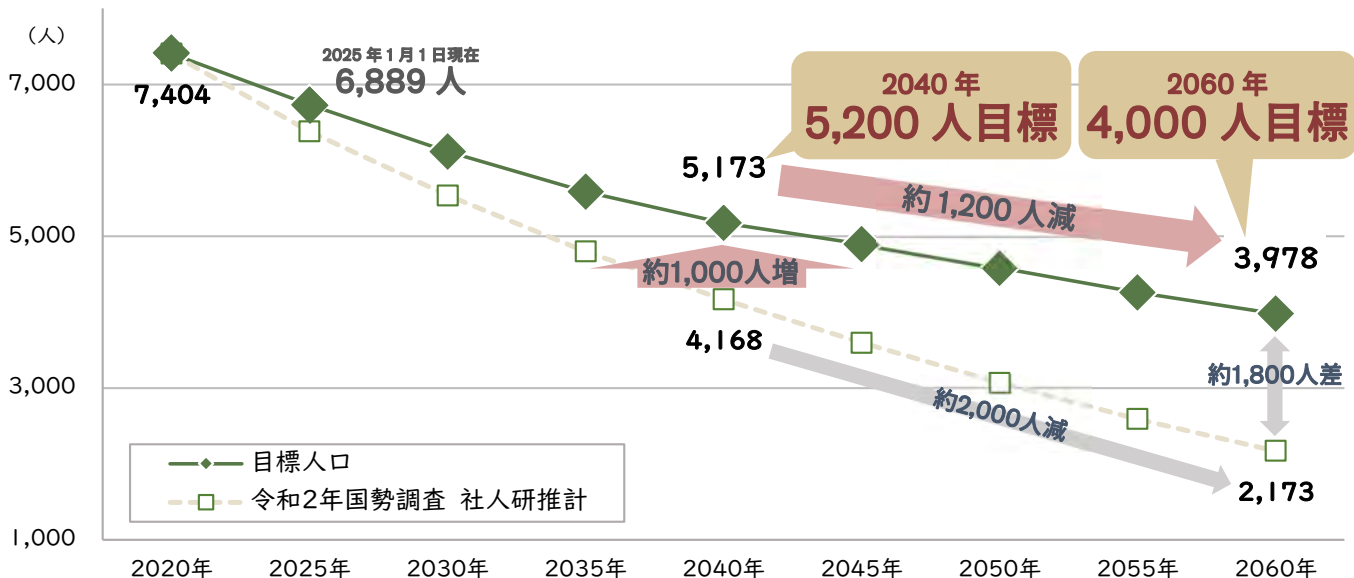
<sup>1</sup> 「地域産業クラスター」とは、特定の地域において産業が集積し、企業、大学、研究機関などが連携を図りながら、競争と協力によって相乗効果を生み出す仕組みを指します。

# 4

## 久万高原町の目標人口

人口減少が進む中、町としての自立を保ち、暮らしと産業を次世代へつなぐため、

久万高原町は、**2060年の総人口 4,000人**を目標にします。



### 目標シナリオ

**2040年 5,200人**

想定範囲 5,100~5,200人

(合計特殊出生率 1.70、5年ごとに15~69歳男女約5%増)

社人研推計値(約4,168人)を起点とし、2040年までの  
**15年間で約1,000人の増加**を目指します。

年平均換算  
年間約67人(1か月あたり5~6人程度)の純増

人を呼び込む (=人口増)

**2060年 4,000人**

想定範囲 3,900~4,000人

(合計特殊出生率 1.70、5年ごとに15~69歳男女約5%増)

2040~2060年の**20年間の人口減少幅**を社人研推計値  
(約2,000人)から**1,200人に抑制**することを目指します。

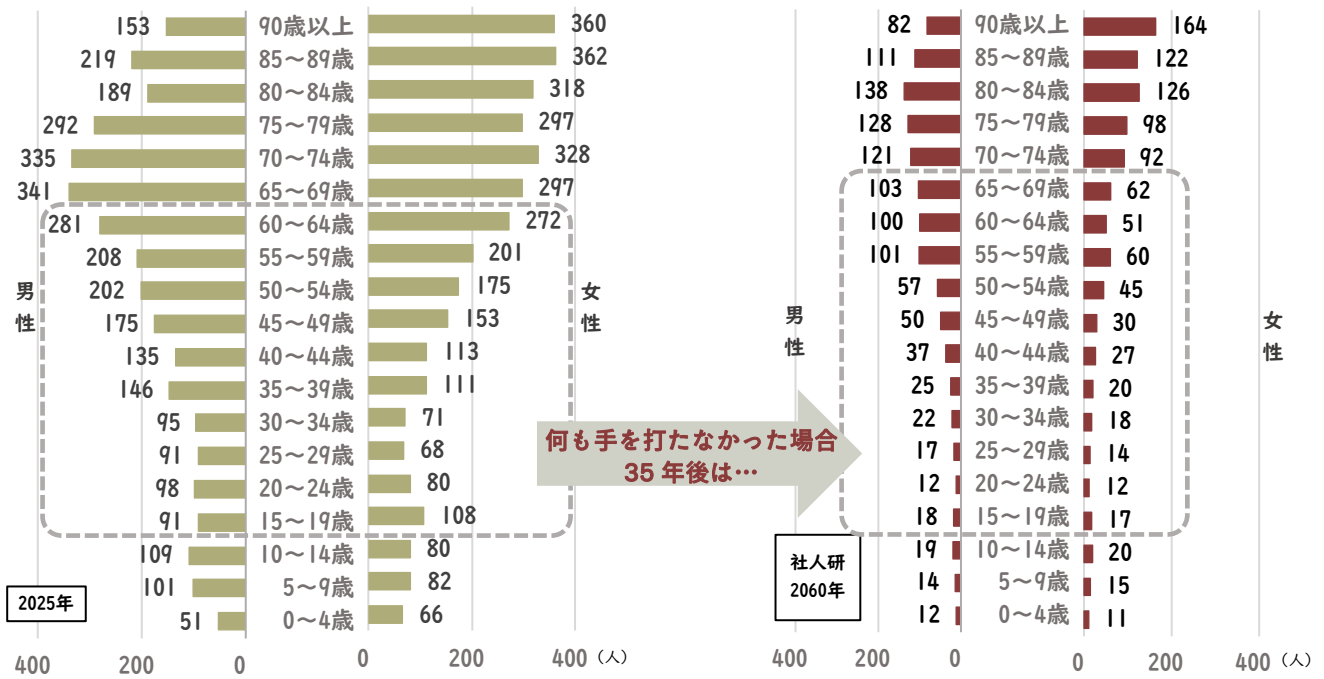
年平均換算  
年間約60人(1か月あたり5人前後)の減少幅

※社人研推計(2,173人)と比較すると、2060年時点では約1,800人多い水準を維持する計算です。

暮らしを守る (=人口減の抑制)

出生や転入による人口の増加に加え、死亡の抑制や転出の減少にも取り組みます。  
2040年までは人を呼び込み、2041年以降は暮らしを支えながら持続的に人口を維持することを目指します。

もう少し詳しく見てみよう



何も手を打たなかった場合  
35年後は…



生産年齢人口  
1/4 減



※年齢不詳を除く

人を呼び込み、暮らしを守る政策によって…

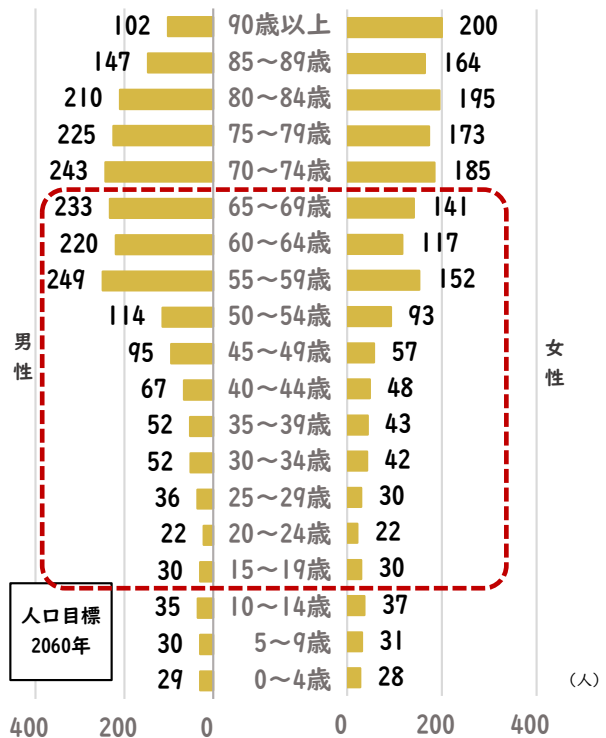


このまま何もしないと…

- ① 支える力が尽きる (医療・福祉の限界)
- ② 子どもがいなくなる (学校・地域の消滅)
- ③ まちの経済が回らなくなる (働く人の消失)

でも、今動けば…

- ① 支える力が戻る (安心が循環するまちへ)
- ② 暮らしが守られる (減っても続く地域へ)
- ③ 産業が動き続ける (受け継がれる仕事と誇り)



森を守り、人を育て、誇りをつないできたこの町を未来に残せるかどうかは、いまを生きる私たちに託されています。

「ウッドスクエア久万高原」この言葉を合言葉に、静かに、しかし確かな一歩を踏み出しましょう。

# 5

## 体系図

【将来像】

### 森と人が編む、恵みの環（わ） —ウッドスクエア久万高原—

5つの大樹			施策
1	きづく <b>築</b>	まちづくり体制の 基礎をつくる	1 行財政運営 2 広域行政 3 DX 4 広報・広聴 5 コミュニティ
2	さかえる <b>栄</b>	地域の力で糧と誇りを つくり出す	1 農業振興 2 農業基盤整備 3 林業 4 商工 5 観光
3	しおり <b>栞</b>	人生のページに そっと寄り添う	1 地域医療 2 地域福祉 3 子育て支援 4 高齢者支援 5 障がい者支援 6 健康づくり
4	うえる <b>植</b>	まちを未来につなぐ 人を育てる	1 学校教育 2 学校給食 3 生涯学習 4 スポーツ・レクリエーション 5 文化（財）活動 6 人権の尊重 7 男女共同参画
5	かまえる <b>構</b>	暮らしを守り、 有事に備える	1 環境美化・保全 2 再生可能エネルギー 3 移住・定住・関係人口増進 4 公共交通・地域交通 5 道路 6 生活環境 7 上下水道 8 土地利用・住宅・公園 9 防災・消防・救急 10 交通安全・防犯

The background of the entire page is a close-up photograph of a light-colored wood grain. The grain runs vertically, with a prominent vertical crease or split running down the center. The wood has a natural, slightly textured appearance with subtle variations in tone from light tan to a slightly darker brown.

# 第3章

## 基本計画



# 1 行財政運営

## ◆◆方向性◆◆

限られた人材と財源を力に変え、組織を磨き、人を育て、施設を生かしながら、住民とともに未来を切り拓く「持続可能な行政経営」へと高めていきます。

## ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の行財政運営は、限られた人材と財源の中で挑戦を続けています。組織面では、班長制から課長補佐が係長を兼務する係制となり、実務をチームで行う責任と主体性が高まりました。自ら考え、仕上げ、課長の承認を得て実行に移す流れへと変化し、事業遂行への意識は確実に前進しています。ただし、本来の強みであるはずの「横の連携」はまだ道半ばであり、組織を超えた知恵と力を結集できるかが次の課題です。

人材育成では、法令遵守や政策立案研修、職場環境の質の向上を目的としたハラスメント防止研修などを継続し一定の成果を上げてきましたが、これからは、職員一人ひとりが意識的に自己研鑽に努め、若手から管理職までが一体となって、まちの未来について真剣に考えていく体制づくりが求められています。

公共施設については、総合管理計画を策定し内部検討を進めていますが、老朽化や財政負担の増大は待ったなしです。住民とともに優先順位を見極め、将来を見据えた統廃合や修繕、新たな活用策を進める舵取りが不可欠です。また、人口減少が進む現在の社会において、財政は、時代に応じた適正規模にスライドしながら、最大効果を得られる事業の創出と実行が今まさに求められています。

行財政は、ただ事務を処理するだけでなく、未来のまちを形づくる「戦略拠点」です。組織を磨き、人材を伸ばし、施設を生かし、デジタルを使いこなす。その挑戦こそが、まちの可能性を広げる原動力となります。

## ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

### [財政]

実質公債費比率（％）	10.4 (R6年度)	▶ 12.0以下維持 (R12年度)
経常収支比率（％）	88.4 (R6年度)	▶ 90.0以下維持 (R12年度)

### [行政]

各課横断型プロジェクト設置（件）	1 (R6年度)	▶ 10 (R12年度)
------------------	-------------	-----------------

## ◆◆施策内容◆◆

- ①公共施設について個別施設計画の改定や現地調査をもとに、更新・修繕・統廃合を計画的に進めます。住民の利便性に配慮して優先順位を見極め、財政情報や事業評価を公開しながら、将来を見据えた持続可能な公共施設運営に努めます。
- ②限られた財源を真に必要な施策に配分し、未来への必要な投資としての予算を確保するため、事務事業評価による見直しを徹底し、財政の健全化を図るとともに、効果的で効率的な行財政運営を目指します。あわせて、住民に身近な税の仕組みや用途をわかりやすく発信し、納税意識の向上と自主財源の確保を図ります。公平・公正な課税の推進と収納率の向上に努め、町の将来を支える安定的な財政基盤を築きます。
- ③課長補佐を中心にチームで実務を担う体制を定着させ、各課が主体的に事業を遂行できる仕組みを整えます。横断的なプロジェクトチームを組成し、分野を超えた連携で成果を高めます。
- ④若手から管理職まで段階的な研修体系を整備し、法令遵守やハラスメント防止等の法制倫理に加え、実務に直結するスキルアップやマネジメント研修を強化します。町外研修や他自治体との交流を通じて職員の意識改革を図ります。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

公共施設の法定点検実施率	%	100.0 (R6 年度)	>	100.0 (R12 年度)
財政調整基金残高	億円	32 (R6 年度)	>	24 以上維持 (R12 年度)
プロジェクトチーム（重要施策・若手職員等）の設置件数	件	1 (R6 年度)	>	10 (R12 年度)
職員研修の実施件数	回	4 (R6 年度)	>	5 (R12 年度)
外部研修・派遣研修実施件数	件	10 (R6 年度)	>	10 (R12 年度)

### 関連計画

久万高原町職員研修計画／久万高原町公共施設等総合管理計画／  
久万高原町公共施設個別施設計画／久万高原町DX推進計画



## 2 広域行政

### ◆◆方向性◆◆

松山圏域との連携を深め、山間地域ならではの個性を広域の力に変え、都市とともに未来を築きます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、霧深い山あいの風景や、清流で育まれる農産物といった「山間地域の個性」を、どう圏域の力に変えるかが重要です。石鎚山系の広域連携が実を結びつつあり、さらには四国カルストの広域連携も進められています。こうした山岳や高原を舞台としたネットワークは、久万高原町の観光資源と直結しており、観光産業を将来の基幹産業として育てる大きな可能性を秘めています。

また、松山市・伊予市・東温市・松前町・砥部町とともに、「松山圏域未来共創ビジョン」にもとづき、圏域全体の活性化にも取り組んできました。通勤や通学で松山市へ向かう人、週末に圏域内の温泉や観光地をめぐる人、農産物を圏域の市場に出荷する人。住民の暮らしはすでに圏域全体とつながっています。そうした日常の延長に、医療や福祉、観光や産業の分野での広域連携が進み、町単独では実現し得なかった支えあいの仕組みが形になってきました。

人口減少や少子高齢化が加速する中、「限られた力をどう集め、何を優先して伸ばすのか」が圏域全体で問われています。さらに、令和7年4月からは広島広域都市圏との新たな連携が始まり、圏域での取組も新しい展開を迎えています。

都市部との補完関係を築きながら、「やまあいのまちだからこそできること」を発信し、石鎚山系や四国カルストをはじめとする広域連携を通じて観光資源を磨き上げることで、観光産業をまちの基幹産業へと育て、圏域全体の未来につなげていきます。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①石鎚山系連携や四国カルスト連携を生かし、山間地域ならではの役割を発揮して、圏域全体の相乗効果を高めます。
- ②松山圏域未来共創ビジョンに基づき、医療・福祉・教育・観光・産業などの分野で広域的な課題解決を進めます。久万高原町の自然や農産物、森林資源といった特色を圏域の強みとして発信していきます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

広域連携イベント実施回数	回	2 (R6 年度)	➤	4 (R12 年度)
松山圏域未来共創ビジョンに掲げる連携事業実施数	件	44 (R6 年度)	➤	41 (R12 年度)

関連計画

松山圏域未来共創ビジョン





## 3 DX

### ◆◆方向性◆◆

業務の効率化にとどまらず、産業や暮らし、外と人をつなぎ直す「ひらかれた久万高原町」への原動力としてDXを推進します。

### ◆◆現状と課題◆◆

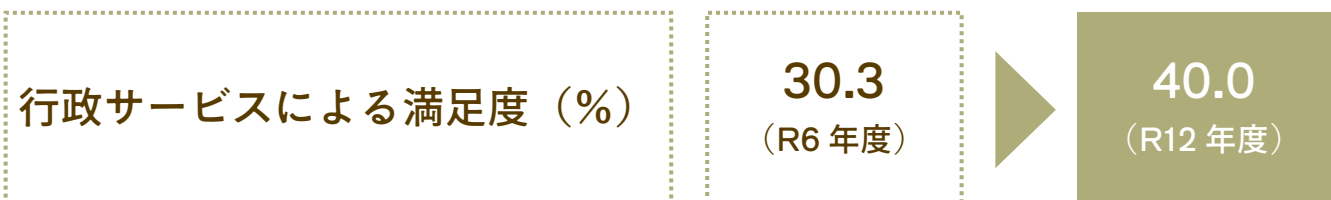
人口減少や高齢化が進む中、私たちの暮らしや働き方の「当たり前」は大きく変わろうとしています。生成AIやデジタル技術の進展は、近い将来、産業革命にも匹敵する変化をもたらし、行政や産業、教育や医療、日常生活にまで広がっていくと予測されています。つまり、未来の景色は、「今とは違っているかもしれない」のです。

久万高原町では、電子決裁や各種システムの導入など、業務の効率化に向けたDXを一歩ずつ進めてきました。しかし、システムを「導入しただけ」では職員の負担軽減には十分つながらず、現場との温度差やスキル格差も浮き彫りになっています。職員一人ひとりが成長型のマインドセットを持ち、デジタルを活用して仕事のやり方を変える姿勢が欠かせません。

また、住民側にも温度差があり、住民からは「デジタルは不安」「難しい」という声がある一方で、中高生からは「SNSで発信したい」「町を盛り上げたい」という前向きな声が上がっています。住民の中にある多様な温度差をどう埋め、誰もが安心して使える仕組みを整えるかが大きな課題です。

中山間地域であるがゆえに、情報発信や参加機会の偏りも残っています。しかし、デジタルは都会との地域格差をなくす重要なツールとして、今まさに進化しています。だからこそ町としては、「未来の景色は違っているかも」という視点に立ち、AIや新しい技術を恐れるのではなく取り込みながら、外とのつながりを広げ、若者や町外在住者を巻き込むことで、新しい久万高原町の姿を描いていきます。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①光回線が行き届いていない地域に対して、引き続き通信事業者への回線敷設の協力依頼を求めるとともに、町単独事業により、携帯電話通信事業者のLTE無線回線等を利用したインターネット通信機器の購入に対する補助を実施し、災害時にも安心できる通信基盤を確保します。あわせて、この基盤を生かしてテレワークやサテライトオフィス、ノマドワーカー<sup>※2</sup>の受け入れなど多様な働き方を支える環境を整えます。
- ②農業のハウス管理システム、林業の木材物流システム、鳥獣害対策のIoT管理など、産業分野へのデジタル活用を積極的に進めます。
- ③SNSやデジタル住民制度などの活用により、町外とのつながりを広げ、町の魅力を発信します。
- ④DXの目的は効率化そのものではなく、行政サービスの質を高め、住民の暮らしを便利で豊かにすることです。この視点を全職員で共有し、ICTを活用した業務改善を自分事として進めます。あわせて、研修や学びの機会を充実させ、職員のデジタルスキルを底上げします。住民に対しても、説明や体験機会を設け、安心してデジタルを使える環境を整えます。
- ⑤電子決裁や「書かない窓口」などを導入し、行政事務の効率化を進めます。業務の省力化によって生まれた余力を、住民対応や新しい施策に振り向けることで、行政サービスの質を高めます。
- ⑥DXを最大限生かした役場組織の業務改善に取り組み、住民目線のデジタルオフィスの実現に向けた各種施策を推進します。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

光回線未整備地域の解消率	%	96.4 (R6年度)	➤	99.0 (R12年度)
テレワークオフィスやサテライトオフィスの利用者数	人	6 (R6年度)	➤	50 (R12年度)
スマート農業機器（環境制御システム、センサー等）導入件数	件	3 (R6年度)	➤	10 (R12年度)
オンラインイベント開催数	回	未実施 (R6年度)	➤	12 (R12年度)
町外からのオンラインイベント参加者数	人	未実施 (R6年度)	➤	600 (R12年度)
職員向けDX研修の実施回数	回	3 (R6年度)	➤	10 (R12年度)
住民向けデジタル体験会・説明会の開催回数	回	23 (R6年度)	➤	30 (R12年度)
電子決裁の利用率	%	15.0 (R6年度)	➤	80.0 (R12年度)

関連計画

久万高原町DX推進計画

<sup>2</sup> 「ノマドワーカー」とは、ノートパソコンやスマートフォン、Wi-Fi環境を活用し、カフェやコワーキングスペースなど、特定のオフィスに縛られずに働く人々を指します。



## 4 広報・広聴

### ◆◆方向性◆◆

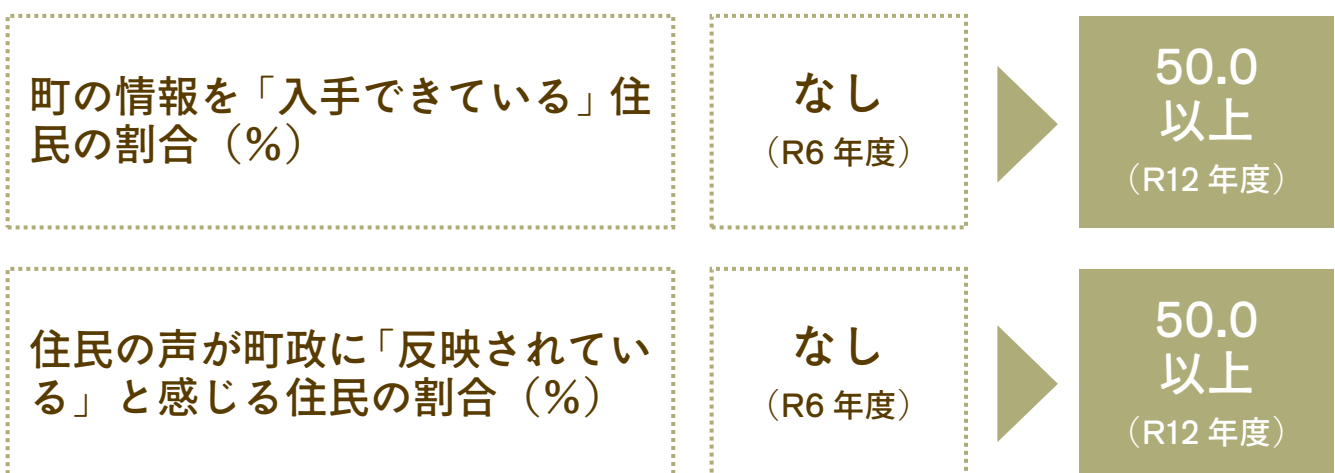
住民の声が届き、住民に伝わる広報・広聴を通じて、住民とともに久万高原町の未来を切り拓きます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、つどいの拠点やワークショップを通じて住民の声を聴く文化が根つき、行政と住民の対話が積み重ねられてきました。しかし、参加者には偏りがあり、町全体の声を広く汲み取るまでには至っていません。広報についても、紙媒体やホームページ、SNSなどで情報発信を行っているものの、町の挑戦や成果が十分に伝わらず、「まちがどう変わっているのか」という実感にはつながりにくいのが現状です。広報のあり方はその時代の進化に合わせて変わっていく必要があります。

これからの10年間は、久万高原町にとってまちの存続をかけた挑戦の時代です。SNSによる断片的な情報が氾濫する今だからこそ、行政には町の情報を公平かつ正確に伝える責任があります。同時に、その熱意ある取組を広報で住民と分かちあい、広聴によって住民の声を受け止めることで、ともにまちを守り育てていく姿勢を大切にしていきます。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①行政が挑戦する姿や成果をわかりやすく発信し、住民と共有します。広報誌の要点を1分～3分程度のショート動画に編集し、SNSや町のWebサイトで発信するなど、紙媒体・HP・SNSなど手段を組み合わせ組み合わせた多様な広報手段を展開し、町内外に向けて「今、久万高原町が進んでいる方向」を可視化します。
- ②ワークショップやつどいの拠点を生かし、より幅広い世代や立場の声を聴く場を設けます。偏りのない参加を促し、多様な視点をまちづくりに反映させます。
- ③住民から寄せられた声や意見の「見える化」を進め、行政の施策や改善につながっていることを丁寧に示します。声が政策に反映される循環を示すことで、住民の参画意欲を高めます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

町広報メディア（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram）での広報発信回数	回/年	1 (R6 年度)	➤	36 (R12 年度)
町広報メディア（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram）での広報発信リーチ数	回/年	126 (R6 年度)	➤	10,000 (R12 年度)
広報誌の電子版閲覧数	回/年	27,159 (R6 年度)	➤	30,000 (R12 年度)
ワークショップや広聴の場の開催回数	回	0 (R6 年度)	➤	12 (R12 年度)
ワークショップや広聴の場の参加者数	人	0 (R6 年度)	➤	100 (R12 年度)
ワークショップや広聴の場の若者比率 (39 歳以下)	%	0 (R6 年度)	➤	30 (R12 年度)
住民の意見の「施策への反映事例」公表件数	件	0 (R6 年度)	➤	10 (R12 年度)

関連計画	なし
------	----



## 5 コミュニティ

### ◆◆方向性◆◆

地域運営協議会の設立や活動を支えながら、世代を超えて誰もが自然に関われるコミュニティを育み、町全体にあたたかなつながりを広げていきます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、学区区などを単位として、人々が集まり顔を合わせ、知恵を出しあいながら、地域運営協議会の設立が進められてきました。小学校や公民館を拠点に、6つの地域ではすでに活動が始まり、さらに2つの地域でも設立に向けた話し合いが進んでいます。町の中心部では、大きな公民館を拠点とする従来の活動が息づいています。新たな地域自治の形への動きはこれからですが、それぞれの地域に合った取組が続けられています。

町の補助事業を活用した地域活動も着実に形となってきたものの、同じ事業の繰り返しでは、参加者や団体が固定化し、広がりが限定的になってしまうことが懸念されます。より多くの住民が気軽に関われる仕組みや工夫が求められています。

町全体に広がる大きなコミュニティのうねりをいかにつくるか。そのためには、集落支援員の配置を生かしながら、新たな住民リーダーを育成し、にぎわいのある場面を広げていくことが重要です。地域運営協議会は、人口減少が進む中で地域のつながりを守り、次世代へ引き継いでいくための「コミュニティの生命線」であり、町全体の力を育てる基盤です。

だからこそ、地域のつながりをもっと広げ、誰もが自然に参加できるコミュニティを育てていくことが、これからのまちの力につながります。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

まちの活性化につながる活動に「参加したことがあり、今後も参加したい」住民の割合（％）

53.0  
(R6年度)

65.0  
(R12年度)

## ◆◆施策内容◆◆

- ①地域運営協議会は、単なる組織ではなく住民が主役となる地域経営の基盤です。その目的を町全体で共有し、行政も伴走者として支援しながら、住民が自らの暮らしを良くする取組を進めます。
- ②世代や立場を超えた交流の場を設け、子どもから高齢者までが自然に参加できる活動を推進します。特に学校・福祉・防災など各分野と連携し、地域全体で暮らしを支えるコミュニティを形成します。
- ③行政の支援は補助事業や広報にとどまらず、住民が気軽に参加できる仕組みづくりへと広がります。固定化を防ぎ、多様な主体が関わることで活動の質と広がりを高めます。あわせて、健康・生きがい・就労などを包括的に支援する CCRC（生涯活躍のまち）の考え方を取り入れ、世代を超えて地域に関わり続けられる仕組みづくりを進めます。
- ④地域での活動や特色ある取組を積極的に発信し、町全体に共有します。町内外のネットワークとつながることで、活動の励みと新しい可能性を広げます。
- ⑤集落支援員や地域運営協議会役員に限らず、分野を超えて地域を動かす人材の育成や交流を進め、町全体の担い手を育てていきます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

地域運営協議会設置数	団体	6 (R6 年度)	➤	8 (R12 年度)
地域活動に関する広報記事の掲載回数	回	12 (R6 年度)	➤	12 (R12 年度)
地域運営協議会における CCRC の取り組み団体	団体	6 (R6 年度)	➤	8 (R12 年度)
子ども・高齢者が集まるイベント件数	件	12 (R6 年度)	➤	48 (R12 年度)
地域リーダー研修・講座の受講者数	人	10 (R6 年度)	➤	20 (R12 年度)

関連計画	なし
------	----



# 1 農業振興

## ◆◆方向性◆◆

久万高原町の農業を、次の世代に確かな形で受け継ぎながら、新たな挑戦によって付加価値を高め、誇りを持って「続けたい」と思える営みへと育てていきます。

## ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の畑や棚田は、季節ごとに色を変えながら、まちの暮らしを支えてきました。清流米や夏秋野菜は「久万高原の味」として根づき、都市住民との交流や体験農園を通じて、農業は地域の宝として広く親しまれています。農業公園の研修制度からは毎年3名ほどのU・Iターン者が巣立ち、この10年では9割近くが町に定着しました。特にトマト農家は高い定着率を誇り、若い世代の挑戦が産地を支えています。

令和6年度には「人・農地プラン」に代わり、新たに「地域計画」を策定しました。この計画は、農地の集約化や担い手の確保、地域課題の解決へ向けた道しるべであり、農業を持続可能にするための重要な土台となっています。

一方で、鳥獣被害は深刻さを増し、令和6年にはシカやイノシシ約800頭が駆除されました。捕獲の現場では、農地を守る負担が重くのしかかりますが、個体数の適正化を図り、農業被害の減少に努めるため、粘り強い対策の強化・継続が必要です。

また、農産物の付加価値の向上や新ブランドの創出は、6次産業化の芽や販路拡大、商品化の取組について一定の成果は見られるものの、持続可能な取組として実を結ぶには、次のフェーズに向けた展開が必要となります。高収益作物や新ブランドを生み出すために戦略的な道筋を立てることができれば、まちの農業に飛躍的な発展をもたらすことができます。白ネギなど新しい挑戦に光が見え始めた作物もあるため、久万高原らしい農業の魅力をさらに引き出すため、挑戦と工夫の積み重ねが必要です。

久万高原町には、農業を「続けたい」と願う人々がいます。日本の食料自給率を考えれば、必ず農業の時代が来るはずで、大切な農地を守りたい高齢の農家、新たに挑戦する若者や企業、そしてまちを訪れる人々。そうした想いが重なりあうことで、農業は未来へと受け継がれ、久万高原町の新たな挑戦を後押ししていきます。

## ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①清流米や夏秋野菜など既存ブランドの魅力を磨き、販路拡大やPRを積極的に進めます。さらに気象条件を生かした高収益作物の導入や新しいブランド創出に挑戦し、久万高原ならではの農業の可能性を広げます。
- ②農家高齢化による「農業生産量の減少を補完」する取組を推進します。特に米の生産量の増加は食糧自給の観点から好機と捉え、官民共創の地域戦略を実践します。また、廃棄野菜の有効活用に取り組み、学校給食や生活困窮者支援と連携しながら、地域経済に悪影響を与えない形での地産地消を進めます。
- ③AIやICT、環境制御技術を導入し、農業経営の省力化と生産性向上を図ります。導入コストの低減や実証実験を通じて、若者の農業へのイメージを変え、幅広い農家が取り組めるスマート農業の普及を進めます。
- ④生産量を高め、久万高原農業をさらなる高みへ成長させ、これまでに継承されてきた農業の知見や技術を受け継ぐ就農者の育成や継承と企業・農業法人の農業参入を進めます。国の農業政策の潮流を見極め、久万高原町の米や野菜が成長戦略として国内外へ打って出られる取組を押し進めます。
- ⑤農業公園の研修制度を継続・強化し、毎年3名程度の研修生を受け入れながら、2040年度には80名以上のトマト農家を確保することを目指します。U・Iターン者や新規就農者が定着できるよう、地域全体で伴走支援を行います。
- ⑥市民農園や体験農業、グリーンツーリズム<sup>※3</sup>の機会を充実させ、都市住民との交流を深めます。交流を通じて農山村地域の活性化を促進し、農業を町の内外から支えあう仕組みをつくります。
- ⑦農業者・行政・関係団体が連携し、捕獲体制や防護施設を強化するとともに、猟友会員の確保や新たな被害対策の研究を進めます。
- ⑧公共牧場である四国カルスト牧場の機能強化を図ることで畜産業の担い手の意欲向上と持続的発展を目指します。

---

<sup>3</sup> 「グリーンツーリズム」とは、豊かな自然に囲まれた農山漁村に滞在し、農林漁業体験や地元の人々との交流を楽しむ余暇活動です。

◆◆成果指標（K P I）◆◆

新ブランド立ち上げ数	件	3 (R6 年度)	➤	5 (R12 年度)
企業・農業法人の農業参入件数	件	2 (R6 年度)	➤	3 (R12 年度)
スマート農業研修会の開催数	回/年	0 (R6 年度)	➤	2 (R12 年度)
トップセールス回数	回	1 (R6 年度)	➤	3 (R12 年度)
農業公園研修生数	人	3 (R6 年度)	➤	5 (R12 年度)
農業公園研修修了生の定住率	%	71.0 (R6 年度)	➤	75.0 (R12 年度)
町外からの体験農園・グリーンツーリズム参加者数	人	7,831 (R6 年度)	➤	7,800 超 (R12 年度)
狩猟免許所持者数	人	132 (R6 年度)	➤	140 (R12 年度)
四国カルスト姫鶴牧場預託農家数	戸	1 (R6 年度)	➤	2 (R12 年度)

関連計画

農業担い手育成プラン／農村振興基本計画

久万農業公園・久万高原農業公社体質強化対策実行計画







## 2 農業基盤整備

### ◆◆方向性◆◆

老朽化した施設を計画的に整備し、省力化と防災機能を高めながら、未来の世代も安心して営農を続けられる農業の土台を築きます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の畑や棚田を支えてきた農業用施設は、40年以上前に整備されたものが多く、老朽化が進んでいます。ほ場整備や用排水施設の改修を重ねることで、優良農地を守り、生産性や省力化につなげてきましたが、施設の維持管理には依然として多くの負担が残されています。

また、防災重点ため池の改修や地すべり対策といった大規模事業も進められ、安心して暮らせる環境が整えられてきた一方で、農業用排水路の維持管理や施設の更新には引き続き課題が残り、これからも「守るべき基盤」をどう維持していくかが問われています。特に、棚田をはじめとする小規模農地は、町の原風景を形づくり、観光や交流の資源としての価値を持つとともに、防災や環境保全にも役立つ大切な存在です。しかし、施設の老朽化や農家の高齢化により維持管理の負担が大きく、離農のリスクが高まっていることが課題となっています。

こうした課題を踏まえ、農地を計画的に整備・管理し、小規模農地も含めて「安心して農業を続けられる環境」を守り抜くことが、これからのまちにとって重要な考え方となります。それは、畑に立つ農家の努力を未来へとつなぎ、棚田の景色を子や孫の世代にも残していく、久万高原町の物語を続けていくことにほかなりません。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①地域計画<sup>※4</sup>を道しるべとして、各地域の課題を共有しながら農地の集約化と担い手の確保を進めます。認定農業者等には農地中間管理事業の活用を支援し、地域農業を持続的に維持できる体制を整えます。
- ②復旧可能耕作放棄地の早期復旧を進め、耕作化に向けた支援策を講じることで、農業生産力の向上を図ります。
- ③優良農地の保全と計画的な基盤整備を進め、農地の汎用化を図ることで、生産性や収益性、省力化を高めます。
- ④ため池の防災対策、農道や地すべり防止施設の保全、長寿命化対策を進め、安心して営農できる環境を守ります。
- ⑤小規模農地の老朽化した農業用施設を改修し、維持管理の負担を減らすことで、農家の営農意欲を支えます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

「地域計画」に基づく担い手への集積率	%	9.0 (R6 年度)	➤	10.0 (R12 年度)
復旧可能耕作放棄地の復旧面積	ha	1 (R6 年度)	➤	3 (R12 年度)
整備・改修済み農地面積	ha	100 (R6 年度)	➤	180 (R12 年度)
ため池・地すべり施設の点検実施率	%	90 (R6 年度)	➤	100 (R12 年度)
県事業を活用した小規模農地施設の改修件数	件	0 (R6 年度)	➤	10 (R12 年度)

関連計画

地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）

<sup>4</sup> 地域計画とは、農地の将来の利用方針や担い手の確保、農地保全のあり方を地域で話しあい、合意形成を図るための計画です。



## 3 林業

### ◆◆方向性◆◆

森を守り、育て、生かす力を循環させ、仕事や暮らしへとつなぎながら、人と森がともに生きる林業を育み続けます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の森は、人々の暮らしと文化を長く支えてきました。四季の光を浴びて育つ杉や桧は、やがて「久万材」として家々を支え、人々に木のぬくもりを届けてきました。その森は町の誇りであり、今も県内材の約4割を占める存在感を放っています。

近年は、京都大学との連携による全森林所有者への調査や、経営管理の集積に向けた取組が進み、町初の林業専門職員の採用という新たな一歩も踏み出しました。展示会で久万材の強さと品質を伝える挑戦や、若手の研修、新しい事業体の参入も芽吹いています。森の働きを次の世代に伝えるため、上浮穴高校の生徒たちが学び、林業まつりでは子どもたちが木のおもちゃに触れ、木の香りに親しむ姿も見られます。

一方で、森を守ってきた熟練の担い手が引退の時を迎え、世代交代の遅れが大きな課題となっています。植林や育林といった基盤を支える作業は重労働であり、担い手不足が深刻です。木材の需要は増えているものの、従来製品に限られ、伐採期を迎えた人工林をどう生かすかが問われています。林業を「暮らしを成り立たせる仕事」として魅力あるものにすることが、これからの町にとって欠かせません。

木質バイオマスによる新たなエネルギー利用、森林内遊歩道を活用した健康づくりなど、森を暮らしに結びつける新しい芽も育ち始めています。

久万高原町の林業は、課題を抱えながらも、森とともに生きる知恵と挑戦を積み重ね、未来の世代へと受け継がれる物語を描こうとしています。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①原木生産から素材供給、製品化までのサプライチェーンを整備し、「ウッドバレー久万高原」として全国に発信できる基盤をつくります。林業商社天空の森や建築業界、製材所、森林組合など多様な主体と連携し、需要に応じた販路開拓と製品開発を推進します。この一連の流れを切れ目なくつなげることでこそが、地域経済を循環させる原動力であり、林業の町として持続していくための要となります。
- ②「ウッドアーティスト in レジデンス事業（仮称）」を始動し、木製品のものづくりを復権させます。空き店舗や工場を活用したシェアワークスペースを整備し、アート化・高付加価値化した木製食器や家具の製作の場を提供します。これにより、移住・起業や商店街再生につなげ、モデル住宅・ネット販売・道の駅・松山圏域デパート等で販路拡大を図ります。
- ③木質バイオマスやチップ化による発電などエネルギー利用、商品開発を進め、林業経営の収益性を高めるとともに、久万高原ならではの脱炭素政策を推進します。また、久万広域森林組合の製材機械の更新により、町林業基盤の再生を図ります。
- ④森林公園や遊歩道の活用促進、木育活動の支援を通じて森林レクリエーションや木育を推進し、住民や都市住民が森林の価値を身近に感じられる環境を整えます。
- ⑤小規模製材所の経営支援や技術継承を進め、林業の担い手と製材業がともに成長する循環を構築します。
- ⑥新規就労者のための住宅借入補助や労働安全のための装備品・労働省力化に資する林業機械の導入支援、資格取得に対する支援を行うことにより作業環境の改善を図り、林業就業者や地域おこし協力隊などの担い手を確保育成するとともに、主伐再造林に対する支援を充実させ、素材生産量を増やします。
- ⑦住所不明地や経営放棄林の増加に備え、森林経営管理制度を実効性あるものとして展開し、町による最終的な受け皿（町有林化など）の検討も含めて責任ある対応を進めます。
- ⑧素材生産量の増加を目指して、林道網未整備地域の路網整備を計画的に進めます。
- ⑨高齢化が進む林道管理団体の機能不全に対応し、省力化を取り入れた持続的な林道管理体制を確立します。

◆◆成果指標（K P I）◆◆

林業経営体数	—	26 (R6 年度)	➤	29 (R12 年度)
アート化、高付加価値化に向けたものづくりの場の整備	—	未整備 (R6 年度)	➤	整備 (R12 年度)
未利用材の木質チップ工場への搬出量	トン	33,546 (R6 年度)	➤	51,500 (R12 年度)
森林公園や木育イベントの参加者数	人	1,300 (R6 年度)	➤	1,600 (R12 年度)
地元材調達量	m <sup>3</sup>	31,500 (R6 年度)	➤	36,000 (R12 年度)
一人親方の件数	件	13 (R6 年度)	➤	13 (R12 年度)
一人親方から法人化した件数	件	0 (R6 年度)	➤	3 (R12 年度)
林道整備延長	km	622.7 (R6 年度)	➤	625.0 (R12 年度)
林道被災復旧・補修件数	件	118 (R6 年度)	➤	100 (R12 年度)

関連計画

久万高原町林業振興基本計画／久万高原町森林整備計画／林道網整備計画







## 4 商工

### ◆◆方向性◆◆

町の素材や人の力を生かし、挑戦やつながりを支えながら、日常のにぎわいと久万高原らしい「しごと」の形をつくります。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、補助事業や金融機関との連携を通じて起業や事業承継を支援する仕組みが整い、ふるさと納税返礼品の開発や新店舗のオープンといった動きが広がっています。移住してきた人の挑戦も増えて、まちに新しい風をもたらし、にぎわいの芽を育てています。

一方で、事業者の多様さゆえに支援の行き届き方には差があり、つながりや情報交換の場づくりが今後の課題です。経営者同士が直接集まるのは難しい面もありますが、現場を支える人材や若手を中心にゆるやかなネットワークを広げることが、互いの知恵や工夫を共有しあう第一歩になり得ます。

商店街については、「商店街が商店街としての姿を失いつつある」「お店にもう一度あかりをともしたい」といった切実な声が寄せられています。気軽に立ち寄れる飲食や買い物の場が少なく、高校生や若い世代が集まれる空間も不足しているため、イベントでにぎわっても、普段のにぎわいにはなかなかつながりません。日常の買い物やおしゃべりができるお店が増えることは、住む人にとっての楽しみであり、外から来た人にとっての「久万高原を知る入口」にもなります。

また、企業立地についてはこれまでわずかですが、地域外の企業とのつながりは広がりつつあります。ただ、「どんな企業でもいい」わけではありません。森や自然を生かしたものづくりや、ここだからこそ挑戦できる「しごと」を、一緒に育てていけるパートナーを迎えることが大切です。

そうした「しごと」のあり方が形になっていくことは、まちに誇りを生み、若者が「ここで生きたい」と思える流れを育むことにつながります。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



※経済センサスは5年に1度の調査のため、目標年度を令和13年度として設定する。

## ◆◆施策内容◆◆

- ①起業や事業承継に活用できる補助事業を継続し、若い世代や移住者の挑戦を応援します。6次産業化の推進（森林、農産物、ジビエ等）や、高校生から出されたアイデアや発想も積極的に取り入れ、「やってみたい」が実際の「しごと」につながる環境をつくります。
- ②商工会青年部など商工事業者と中間支援組織、行政がONEチームとなり、分野を越えた人のつながりを広げ、商工業の再生戦略を推進する環境をつくります。また、経営者同士に限らず、現場を支える人材や若手が気軽に関わられる場を整え、普段は出会わない人たちが話しあえる関係性を育てます。
- ③商店街にあかりを灯すことを目指し、町の文化的な情緒感を取り戻し、飲食や買い物ができる場を少しずつ増やしていきます。気軽に立ち寄れるお店は、高校生や若い世代にとっての居場所になり、高齢の方にとっても楽しみを広げます。イベントの一時的な盛り上がりだけでなく、日常のにぎわいへつなげていきます。
- ④町に関心を示す地域外企業との関係づくりを進め、具体的な案件は積極的に支援します。森や自然を生かしたものづくりなど地域に根ざす企業を迎え、若い世代が働きたくなる「しごと」と安心できる職場をつくります。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

起業支援や事業承継補助金の活用件数	件	6 (R6年度)	➤	6 (R12年度)
町内で起業・創業した事業者の売上の合計（町が支援したものを対象とする）	百万円	31 (R6年度)	➤	100 (R12年度)
高校生プロジェクト実施件数	件	8 (R6年度)	➤	10 (R12年度)
異業種交流会・意見交換会の年間開催回数	回	2 (R6年度)	➤	4 (R12年度)
商店街の新規出店数 (R8からの累計)	店	0 (R6年度)	➤	5 (R12年度)
商店街イベント実施件数	件	13 (R6年度)	➤	15 (R12年度)
企業版ふるさと納税受入れ件数	件	5 (R6年度)	➤	5 (R12年度)

関連計画

久万高原町企業立地促進条例



## 5 観光

### ◆◆方向性◆◆

自然や文化を磨き、人の誇りと来訪者の感動をつながげながら、季節を問わずにぎわいが循環する持続可能な観光を育みます。

### ◆◆現状と課題◆◆

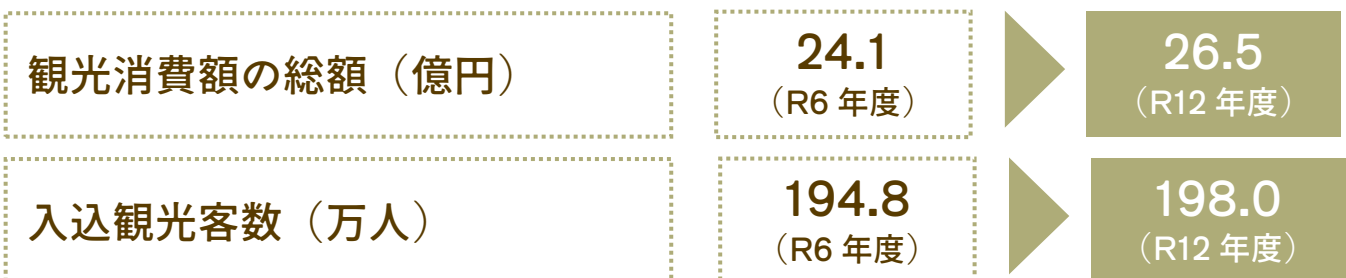
久万高原町の観光は、石鎚山・四国カルスト・皿ヶ嶺の名山に囲まれた絶好のアウトドアフィールドであり、遍路文化やミュージアムといった多様な資源を備えています。道の駅「天空の郷さんさん」は県内有数の人気拠点へと定着し、ミュージアムを拠点とした文化観光も着実に成長してきました。こうした成果は、久万高原町が大きな飛躍を遂げるだけの確かな潜在力を持ち、その兆しがすでに芽吹き始めていることを示しています。

確かに、アクセスの不便さや宿泊施設の減少、観光人材の不足といった課題から、「来てもらうのは簡単ではない」という声も、住民の実感として根強くあります。冬期の道路凍結や受け入れ体制の弱さなど、環境面の課題も無視できません。けれど、こうした課題の中でも、新たな挑戦に向けた芽は着実に育ち始めています。小さな取組が来訪者の心を動かし、その感動が次の出会いへとつながっています。

これから私たちに求められるのは、この小さな芽を信じて育て、町の持つ力を最大限に引き出していくことです。観光を町の基幹産業に育て、観光企業を育成し、雇用を創出し、やがては町を代表する観光企業が誕生する未来を描いていきます。自然・文化資源の保全と活用を両立させ、オーバーツーリズムへの対応を含めた環境整備を進めながら、おもてなしの風土に裏付けられた地域の魅力的なヒト、文化や歴史を体験価値として磨き上げていく。その挑戦の先に、久万高原町は「訪れる場所」から「憧れられる場所」へと進化します。そのためには、観光を、一過性ではない久万高原ファンをつくるものにしなければなりません。

観光を通じて、住む人が誇れるまちをつくり、訪れる人が「価値を払いたい」と思える魅力を提供すること。また、一過性ではない、町の自然・文化に共感し関わりを持とうとする久万高原ファンをつくること。それぞれが久万高原町の観光の目指す姿です。社会・経済・環境・文化の調和の取れた持続可能な観光を推進し、久万高原町は今まさに、一大観光地への扉をこじ開ける挑戦の時を迎えています。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D<sup>※5</sup>）に基づく計画を策定し、社会、経済、文化、環境の4側面でバランスの取れた観光を目指します。地域一帯で持続可能な取組を進め、観光による好循環を形にします。
- ②「高原ブランド」といえる四国カルスト・面河溪・石鎚山の自然や、地域とミュージアムを舞台にした文化の学びと交流を文化観光として推進します。久万高原のブランドイメージを国内外に発信し、町の認知度を高めます。また、自然と文化の基礎研究の推進、資源の保全と活用の両立を図りながら、アウトドアフィールドとしての着地型体験コンテンツ、魅力的な人材にフォーカスした「ヒト消費」のコンテンツの企画、造成、販売を進めつつ、観光地としての魅力を磨きます。これら高原独自の自然、文化観光により、一過性ではない久万高原ファンを創出することで、持続的に地域経済と文化に関わる人材を育成します。
- ③既存の石鎚山系・カルスト広域連携を活用し、域内周遊の促進や付加価値の高い旅行商品の造成に取り組みます。また、松山圏域との連携も今後拡大しつつ、SNSやDX技術の活用も含めた対外的なプロモーションの強化に努めます。
- ④四国遍路との結びつきを生かしたインバウンド戦略を推進し、海外からの日帰り型、滞在型観光客の受け入れを進めます。
- ⑤観光客が快適に移動・滞在できるように、2次交通の充実や道路・景観、トイレ整備など、観光の受け入れ環境をハード・ソフト両面から整備・充実させます。
- ⑥観光業界で働きたいと思えるきっかけをつくり、町内の事業者が安心して稼げる仕組みを整え、将来的には町を代表する観光企業が生まれることを視野に入れ、地域経済をけん引する観光地経営を目指します。また、外部人材の登用や移住を進めつつ、観光協会が旗振り役となり、地域DMO<sup>※6</sup>としての役割を担えるよう、体制の強化を急ぎます。

<sup>5</sup> 「JSTS-D (Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations)」とは、地方自治体やDMO（観光地域づくり法人）などが、地域の実情に合わせて「住んでよし、訪れてよし」の観光地マネジメントを行うための国際基準に準拠した観光指標を指します。

<sup>6</sup> 「地域DMO (Destination Management/Marketing Organization)」とは、地域の観光資源を生かしながら、観光による所得向上や地域経済の活性化を図るための中核組織です。行政・事業者・住民をつなぎ、観光地経営（地域の稼ぐ力づくり）を総合的にマネジメントする役割を担います。

◆◆成果指標（K P I）◆◆

JSTS-D ロゴ認証取得状況	—	未取得 (R6 年度)	➤	認証取得 (R12 年度)
体験型コンテンツ数	件	18 (R6 年度)	➤	30 (R12 年度)
着地型旅行来訪者数	人	3,500 (R6 年度)	➤	5,000 (R12 年度)
観光客の満足度調査	回/年	未実施 (R6 年度)	➤	1 (R12 年度)
道の駅2 駅への観光客入込客数	人	114 万 (R6 年度)	➤	118 万 (R12 年度)
文化施設3 館の利用者数	人	15,000 (R6 年度)	➤	16,000 (R12 年度)
文化施設3 館のイベント実施回数	回	50 (R6 年度)	➤	維持 (R12 年度)
スポーツ関係宿泊数	人	2,200 (R6 年度)	➤	3,000 (R12 年度)
文化観光コンテンツ参加者数	人	400 (R6 年度)	➤	600 (R12 年度)
広域連携イベント実施回数	回	2 (R6 年度)	➤	4 (R12 年度)
Instagram（観光協会）フォロワー数	回	2,900 (R6 年度)	➤	4,000 (R12 年度)
観光協会HPアクセス数 （アクティブユーザー数）	回	22,000 (R6 年度)	➤	25,000 (R12 年度)
2 次交通など観光客の足確保に関する取組 （EV レンタカー導入、自家用有償運送サー ビスの構築、UberTaxi 導入など）	—	0 (R6 年度)	➤	1 (R12 年度)
観光人材研修参加者数	人	40 (R6 年度)	➤	80 (R12 年度)

関連計画

久万高原町観光振興計画／面河溪再整備計画





# 1 地域医療

## ◆◆方向性◆◆

医療・介護・福祉が連携し、限られた資源を補いあいながら、住民が安心して暮らせる地域医療体制をつくります。

## ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の医療は、これまで町立病院を拠点に築かれてきました。地域連携室を軸に町内外の医療機関とのつながりを広げ、訪問診療や訪問看護も少しずつ根づき、在宅や地域で支える医療の芽が育ち始めています。けれども、その体制を支える人材は限られており、若い医師や看護師がなかなか定着せず、救急や夜間の対応を維持することが難しくなっています。

病院のベッドに入院するのは高齢の方が多く、退院後は自宅や施設で暮らす流れが一般的になってきました。病床の稼働率は下がり、救急体制を守る力も揺らいでいます。子どもが急に熱を出した夜、出産が迫ったとき、あるいは台風の風雨が強まる中、町には小児科や産婦人科がなく、家族は不安を抱えながら遠方の病院へと車を走らせます。そんな光景が、子育て世代にとって日常の不安となっています。

また、町立病院の建替えは難しく、既存施設の長寿命化と修繕での対応が必要です。ICTや遠隔医療の導入も試みられていますが、まだ十分には広がっていません。医療を支える財政基盤として国民健康保険の健全運営が進められており、県内の保険料水準の統一に向けた取組やデータヘルス計画による健康づくりの取組が展開されています。

地域医療分野では、さまざまな困難に立ち向かい「住民と医療をつなぎ続けよう」という強い思いが息づいています。小さな一歩を積み重ねながら、地域に寄り添う医療の形を育てていく。その挑戦が今、始まっています。

## ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①拠点医療機関である町立病院地域連携室を中心に、町内の医療機関の機能分化を推進し、持続可能なプライマリ体制を構築します。また、町内外の医療機関とのネットワークを強化し、松山の小児及び高度医療機関との連携を強化します。
- ②愛媛県の医療対策と連携し、プライマリ・ケア<sup>※7</sup>を実践する総合診療医の確保に努めます。とりわけ小児科問題への対応として、身近に相談できる体制を整え、町立病院を地域住民の「健康の木ノ根」として、誰もが安心して気軽に通院できる環境を目指します。
- ③訪問診療・訪問看護を拡充し、地域包括ケア病床の増床やリハビリ人材の確保により、在宅医療及び在宅・施設復帰支援を強化します。
- ④町立病院で行う地域医療学講座を通じて、地域医療の魅力を伝え、医師・看護師・リハビリ職員など医療人材の確保と育成を推進し、地域の医療の将来を担う職員の定着を支援します。その過程で、医療スタッフが「患者から学び、患者に還元する」という姿勢を共有し、ヒポクラテスの誓い<sup>※8</sup>やナイチンゲール誓詞<sup>※9</sup>に立ち返ることで、町立病院の魅力を高め、人が集まる職場づくりを進めます。
- ⑤救急搬送や夜間対応など地域の救急体制を維持するため、消防や他医療機関と連携し、住民の安心を守ります。
- ⑥ICTや遠隔医療を活用し、巡回診療や専門医の支援、業務効率化を進めます。
- ⑦町立病院・診療所等の長寿命化や、公設民営医療施設の維持修繕及びへき地直営診療所移行への検討に取り組み、持続可能な医療基盤を整えます。
- ⑧国民健康保険については、データヘルス計画の推進やKDBシステム<sup>※10</sup>の活用により、住民の健康保持・増進を図ります。あわせて、県の方針に基づき、県内の保険料水準の統一に向けた制度運営を着実に進めます。

<sup>7</sup> 「プライマリ・ケア」とは、患者の心身を総合的に診て、日常的な病気の初期治療や健康管理、予防医療を提供する「身近でも相談できる医療」のことです。地域の「かかりつけ医」として機能し、必要に応じて高度な専門医や病院へつなぐ役割も担います。

<sup>8</sup> 「ヒポクラテスの誓い」とは、古代ギリシャの医師ヒポクラテスに由来するとされる、医師の職業倫理・道徳に関する宣誓文です。患者の利益を最優先にし、医術を悪用しないことや、守秘義務などが現代の医療倫理の原点として受け継がれています。

<sup>9</sup> 「ナイチンゲール誓詞」とは、看護の基礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールに敬意を表し、看護学生や医療従事者が職業への責任と倫理観を胸に刻むための「誓いの言葉」です。看護学校の戴帽式（誓いの式）などで伝統的に唱和されています。

<sup>10</sup> 「KDBシステム」とは、国が集めている医療・介護・健診のデータを、自治体が自分の地域の状況に合わせて分析できる仕組みです。どんな病気が増えているか、どの年代に課題があるかなどを見える化し、効果的な健康づくりや予防の取組に役立ちます。

◆◆成果指標（K P I）◆◆

各地区の医療機関との連携会議開催回数	回	0 (R6 年度)	➤	2 (R12 年度)
総合診療医の確保人数	人	0 (R6 年度)	➤	1 (R12 年度)
訪問診療・訪問看護の実施件数	件	4,770 (R6 年度)	➤	5,000 (R12 年度)
医師・看護師・リハビリ職員の定着率	%	93.5 (R6 年度)	➤	100.0 (R12 年度)
救急搬送受入件数	件	231 (R6 年度)	➤	235 (R12 年度)
夜間・休日救急対応件数	件	1,327 (R6 年度)	➤	1,350 (R12 年度)
遠隔診療・ICT活用件数	件	0 (R6 年度)	➤	5 (R12 年度)
医療施設の維持修繕実施件数	件	8 (R6 年度)	➤	10 (R12 年度)
国民健康保険税の収納率（現年）	%	96.65 (R6 年度)	➤	97.00 (R12 年度)

関連計画

久万高原町公立病院改革プラン／新病院建設基本計画／  
久万高原町保健事業実施計画（データヘルス計画）・特定健診等実施計画／  
高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施基本方針





久万高原町

フォトギャラリー





## 2 地域福祉

### ◆◆方向性◆◆

顔の見えるつながりを生かし、住民が互いに支えあい、助けあいを促進し、誰もが住み慣れた土地で安心して暮らせる地域共生社会をつくります。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、人口減少や少子高齢化の進行に加え、家族形態の変化や地域社会の変化により、地域や家庭、職場等での助けあいや声かけが少しずつ薄れています。かつて身近にあった声かけや助けあいの場面は減り、困ったときに頼れる人を見つけづらいと感じる人も少なくありません。こうした中で、老老介護や一人暮らしの高齢者、ひきこもり、虐待、生活困窮など、さまざまな生活課題が複雑に重なりあい、地域の支えあいの仕組みが今一度求められています。

一方で、「誰かの力になりたい」という思いを持つ住民や団体も少なくありません。社会福祉協議会をはじめ、自治会やボランティア団体、企業や福祉施設などが連携し、地域福祉計画を軸とした支援の輪が広がりつつあります。若い世代や新しい団体が新たな活動を起こしていくことが必要となっています。

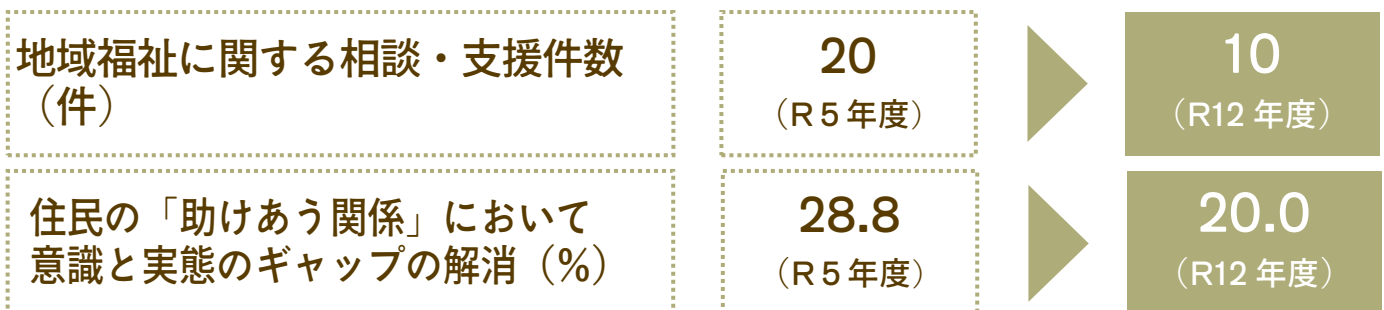
課題は依然多いものの、小さな活動が重なりあえば、孤立した人を支え、困りごとに耳を傾ける地域の力となります。久万高原町には、住民一人ひとりのやさしさとつながりを力に変えられる可能性が確かに息づいています。

さらに、在宅医療・福祉（介護を含む）のシームレスなサービス提供体制を確立するため、「在宅医療介護連携推進事業ワーキング部会」を戦略的に組織しています。

このワーキング部会は、医療、福祉、介護、行政といった多職種連携のキー・ステークホルダーが集結するイノベーション・プラットフォームとしての役割を担っています。ここでは、地域固有の課題や、既存の制度がカバーしきれないサービスギャップに対し、データと知見に基づいたきめ細やかな議論を重ねています。

さらに、本部会がハブ機能となり、実践的なスキルアップを目的とした専門研修や、参加者間の共創を促すワールドカフェ形式の対話イベントを積極的に実施しています。これらの先駆的な取組は、地域包括ケアシステムの深化を促し、久万高原町のウェルビーイング<sup>11</sup>を最大化する「健康的なまちづくり」に大きく貢献しています。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



<sup>11</sup> 「ウェルビーイング (Well-being)」とは、身体的・精神的・社会的なすべての面において「満たされた良好な状態」を指す包括的な概念です。単に病気やケガがない状態 (=健康) だけでなく、幸福感や生きがい、他者との良好な関係性を含んだ持続的な豊かさを意味します。

## ◆◆施策内容◆◆

- ①福祉相談体制を強化し、生活困窮・孤立・ひきこもり・再犯防止など多様な課題に対応できる仕組みを整えます。
- ②社会福祉協議会・民生児童委員との連携を密にし、低所得者や生活困窮者への切れ目のない支援を進めます。
- ③災害時要支援者支援や成年後見制度の普及を進め、安心して暮らせる地域福祉基盤を整えます。
- ④在宅医療介護連携推進ワーキング部会を中核とする多職種連携のイノベーション・プラットフォーム機能を最大限に強化します。これにより、今後ますます必要とされる地域包括ケアシステムにおける医療・福祉（介護を含む）のシームレスなサービス提供体制の推進を図ります。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

福祉相談を受けて解決・改善につながった割合	%	40.0 (R6 年度)	➤	50.0 (R12 年度)
低所得者・生活困窮者への支援件数	件	5 (R6 年度)	➤	5 (R12 年度)
災害時要支援者登録者への支援計画策定件数	件	0 (R6 年度)	➤	600 (R12 年度)
成年後見制度の利用件数	件	3 (R6 年度)	➤	10 (R12 年度)
成年後見制度の啓発実施回数	回	1 (R6 年度)	➤	1 (R12 年度)
在宅医療介護連携推進事業ワーキング部会回数	回	6	➤	6
在宅医療介護連携推進事業研修会回数	回	2	➤	4

関連計画

久万高原町地域福祉計画



### 3 子育て支援

#### ◆◆方向性◆◆

子どもを産み育てる喜びを、町みんなで分かちあえるように。

お年寄りも若者も地域の人と一緒に、子育て世代に寄り添い、安心して子どもを育てられるまちをつくります。

#### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の子育ては、妊娠期からの相談や乳幼児健診などを通して、親子に寄り添う支援を積み重ねてきました。地域子育て支援センターやつどいの広場、こども園や放課後児童クラブ、子ども食堂や地域の居場所づくり。町内のあちこちに「子どもを見守ろう」というまなざしが息づいています。

けれども、少子化の波は容赦なく押し寄せています。令和6年度の出生数はわずか10人。運動会で声援を送る子どもの列も、地域のお祭りで走り回る子どもの姿も、年々少なくなっています。近くに小児科や産婦人科がない地域では、夜中に熱を出した子を抱えて遠い病院へ車を走らせる親の不安が、日常の一部になっています。

「助けてほしい」と声を上げられる場所があること。

「助けてあげたい」と差し伸べられる手があること。

それが、この町に暮らす家族の支えになります。

大切なのは、一人の力や一つの制度ではなく、町全体で子どもと家庭を支えること。お年寄りも若者も、地域の人や行政も、それぞれの立場から手を伸ばしあい、子どもたちに「ここで育ってよかった」と思える時間を積み重ねていく。限られた資源の中でも、小さな命が町に生まれるたびに、町全体が笑顔で迎えられる。そんな未来を信じて、歩みを進めていきます。

#### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

久万高原町の子育て環境や支援に「満足している、どちらかといえば満足している」保護者の割合（％）

37.1  
(R6年度)

40.0  
(R12年度)

## ◆◆施策内容◆◆

- ①妊娠期から出産・子育て期まで切れ目のない伴走型相談支援を実施し、母子の健康や育児不安の軽減を図ります。
- ②こども家庭センターを中心に、関係機関や地域団体とのネットワークを構築し、虐待防止や困難を抱える家庭への支援を強化します。
- ③近くに小児科・産婦人科がないことによる不安を補うため、小児科医、助産師等によるオンライン相談の強化を図ります。
- ④保育施設や放課後児童クラブの環境整備、保育人材の確保・育成を進め、安心して利用できる保育環境を整えます。
- ⑤子どもの声を聴き、子どもの視点を取り入れた居場所づくりを推進し、地域ぐるみで子どもを育てる文化を再び醸成します。働き世代が高齢者を支え、高齢者が子どもたちを支え、子育て世代は我が子をしっかりと育てる「支えあいの循環」を広げ、地域住民とともに子どもを育てる体制を整えます。そのために、地域で育児支援を求める家庭と提供できる人材をつなぐ体制を整備します。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

乳幼児の全数把握	%	100.0 (R6 年度)	>	100.0 (R12 年度)
虐待防止及び支援が必要な家庭に関する啓発活動の実施回数	回	1 (R6 年度)	>	3 (R12 年度)
遠隔診療や休日・夜間対応の実施件数	件	44 (R6 年度)	>	70 (R12 年度)
こども園・放課後児童クラブの待機児童数	人	0 (R6 年度)	>	0 (R12 年度)
子ども食堂や居場所づくり活動の開催回数	回	6 (R6 年度)	>	6 (R12 年度)
地域子育てサポーター(仮)の養成	人	0 (R6 年度)	>	15 (R12 年度)

関連計画

久万高原町こども計画／久万高原町男女共同参画推進計画



## 4 高齢者支援

### ◆◆方向性◆◆

誰もが歳を重ねても「ここで暮らしてよかった」と思えるように。

地域の人と人との支えあい、高齢者が安心して暮らせるまちをつくります。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の高齢者福祉は、役場内の地域包括支援センターをはじめ、社会福祉協議会の各支所に設けたランチセンターを通じて「困ったら相談できる」体制を整えてきました。病気や介護の不安が寄せられれば専門機関につなぎ、担当地域ケア会議で解決策を探るなど、顔の見える関係を生かした支援が広がっています。サロンや「いきいき百歳体操」の場では、仲間と声を掛けあいながら体を動かす高齢者の姿があり、地域に健康とつながりの輪が息づいています。

けれど、住民の約半数が高齢者という現実、支える力よりも支えを必要とする力が大きくなっていることを示しています。介護や医療の担い手は年々減り、施設やサービスの縮小が避けられない地域も出てきました。骨や関節の不調を抱える人も多く、フレイル<sup>※12</sup>やロコモティブシンドローム<sup>※13</sup>を防ぐ取組の重要性は増していますが、それを支える人材も十分とは言えません。

一人暮らしや高齢夫婦のみの世帯も増えています。買い物や掃除といった「ほんの少しの手助け」が届かず、不安を抱えて暮らす姿があります。

町立病院の建替えは見送られ、既存施設の修繕や長寿命化でしのぐ状況です。町では介護保険や高齢者福祉施策を推進してきましたが、高齢化の進行や広大な町域による複合的な課題が、「地域包括ケア」から「地域共生社会」へと進む歩みを阻んでいます。

それでも、久万高原町には断らない相談や民生委員の見守り、地域での小さな支えあいの積み重ねがあります。住民の半分が高齢者だからこそ、助けを必要とする人と手を差し伸べる人が日常の中で交わりあい、暮らしを支えあう土壌が残されています。大切なのは「いつか」ではなく「いま」。今日の暮らしを安心して続けられるように、制度と地域の力を組み合わせた高齢者の活躍と支えあいが求められています。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



<sup>12</sup> 「フレイル」とは、加齢によって筋肉量や心身の活力が低下し、健康な状態から要介護状態へ移行する中間の「虚弱」な状態を指します。

<sup>13</sup> 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」とは、骨や関節、筋肉などの「運動器」の衰えにより、立つ・歩くといった移動機能が低下し、将来的に介護が必要となるリスクが高い状態を指します。

## ◆◆施策内容◆◆

- ①フレイル予防やロコモ対策を推進し、サロン活動や体操を通じて高齢者の健康寿命の延伸を図ります。あわせて、KDBシステム等を活用し早期にリスクを把握して水際での支援につなげます。
- ②「生活・介護支援サポーター養成講座」「地域支え合いセミナー」等の人づくり・地域づくりに資する講座を開催し、地域における見守りや支えあいの重要性に対する認識を深めます。講座修了者に対し、「地域見守り推進員」や「介護支援ボランティア」への登録、サロン活動への参加などボランティア活動への参加を促進します。
- ③在宅生活を望む高齢者を支えるため、生活支援コーディネーターを中心に住民主体型サービスを充実させます。
- ④地域包括支援センターやランチセンターを核に、多様な相談に対応し、専門機関や地域資源と連携した支援体制を強化します。
- ⑤認知症に関する理解促進、予防、ケア、バリアフリーの4つの柱に沿った総合的な取組を継続します。
- ⑥介護保険制度の持続性を確保するため、介護給付適正化や家族介護の支援を推進します。
- ⑦「久万高原町版地域包括ケアシステム」として、医療・介護・福祉の連携を深め、地域共生社会への発展を図ります。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

いきいき百歳体操や通いの場の実施回数	回	800 (R6年度)	>	900 (R12年度)
いきいき百歳体操や通いの場の参加人数	人	140 (R6年度)	>	150 (R12年度)
人づくり・地域づくり講座の開催回数	回	16 (R6年度)	>	15 (R12年度)
住民主体型サービス登録件数	件	14 (R6年度)	>	16 (R12年度)
地域包括支援センターの相談件数	件	315 (R6年度)	>	300 (R12年度)
認知症サポーター養成講座の受講者数	人	38 (R6年度)	>	30 (R12年度)
介護給付適正化に関する取組数 (医療情報との突合)	件	37 (R6年度)	>	30 (R12年度)
地域ケア会議の開催回数	回/年	1 (R6年度)	>	4 (R12年度)

### 関連計画

久万高原町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画



## 5 障がい者支援

### ◆◆方向性◆◆

困ったときに「助けて」と言え、周りから「大丈夫、支えるよ」と声が届くこと。

そんな日常を広げ、障がいのある人もない人も、一緒にこの町で生きていける地域をつくります。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の障がい者支援は、保健・福祉・教育・医療が手を取りあい、日常を支える仕組みを築いてきました。心身の発達に不安のある子どもには早期から療育の場を用意し、就学や進学の日には先生や医師、相談員が集まり、本人と家族の声を大切にされた支援が行われています。

一方で、暮らしの中に残る不安は大きく、特に「親なき後の生活」は家族にとって切実な課題です。親が元気なうちは支えられていても、いずれ訪れるその時に、誰が代わりに寄り添ってくれるのか。多くの家族が心の奥でその問いを抱えています。就労についても、町内の就労継続支援事業所の取組では、仲間と一緒に働き、役割を持つ喜びもありますが、やりがいのある仕事とともにさらなる工賃の向上が求められています。

療育の場で一歩ずつ成長する子どもを支える先生や専門職、就労の場で自分の役割を果たすことに喜びを感じる人の姿、地域の祭りで障がいのある人と住民と一緒に笑顔を交わす場面。こうした一つひとつの積み重ねが、「ここで生きていける」という安心へとつながっていきます。

大切なのは、「助けて」と声を上げられる場所と、「支えるよ」と手を伸ばせる関係を広げていくことです。久万高原町は、障がいのある人が親の世代の後も安心して暮らし続けられる地域を目指し、自立と共生を支えるよう取り組んでいます。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

障害福祉サービス利用者数（人）

123  
(R6年度)

130  
(R12年度)

## ◆◆施策内容◆◆

- ①障がいのある子どもへの療育や教育支援を充実させ、保健・医療・福祉・教育が連携した切れ目ない体制を整備します。
- ②障害者相談支援センターを核に、日常生活や将来不安への相談、例えば「親なき後」の生活の不安にも応じ、必要な制度やサービスへ円滑につなぐ仕組みを強化します。
- ③就労継続支援の推進により、障がい者が自分の力を発揮し、働きがいや生きがいを実感できる場を広げます。就労支援事業所の新規参入を後押しし、町内に選択肢のある就労環境を整えます。また、農業や林業、観光等町の資源を生かし、その方にあった作業の選択ができるよう新たな作業改革を支援し、工賃の向上を目標としながら地域の中で安心して働き続けられる仕組みを築きます。
- ④障がい者理解の啓発活動や地域住民との交流の場を広げ、地域全体で共生を進める機運を高めます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

福祉サービスの利用割合	%	29.0 (R6 年度)	>	35.0 (R12 年度)
障害者相談視線センターへの新規相談割合	%	11.0 (R6 年度)	>	15.0 (R12 年度)
就労支援事業所の平均工賃（1カ月）	円	24,578 (R6 年度)	>	28,000 (R12 年度)
農福連携に関する作業受託件数	件/年	3 (R6 年度)	>	4 (R12 年度)
障がい者と地域住民の交流イベント開催回数	回	2 (R6 年度)	>	5 (R12 年度)

関連計画

久万高原町障がい者基本計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画



## 6 健康づくり

### ◆◆方向性◆◆

健康づくりをまちの未来への投資とし、みんなが笑顔で生きるまちをつくりまします。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、働き盛り世代の死亡や高齢者の要介護につながる大きな要因は生活習慣病です。健診の結果からは、高血圧や糖尿病のコントロールが不十分な人が多く見られ、これが生活習慣病の発症や重症化につながっています。その影響は個人の健康にとどまらず、医療費や介護給付費の増加を招き、町全体の財政や暮らしの持続可能性にも直結しています。

一人ひとりの健康は、町全体の活力を支える基盤です。元気に暮らす人が増えることは、介護や医療にかかる費用を抑えるだけでなく、住民が安心して働き、地域活動に参加し、未来に可能性を広げていく力につながります。

一方で、健診や保健指導を通じた病気の早期発見や重症化予防は進められてきましたが、特に働き盛り世代では「忙しさ」を理由に健診を受けない人も少なくありません。高齢化が進む中でフレイルやロコモを防ぐ体操や通いの場の取組も広がっていますが、独居高齢者や交通手段を持たない人までは十分に届いていない状況です。こころの健康についても、かつて自殺率が高かったことを背景に相談窓口の周知やゲートキーパー養成を進めてきましたが、引き続き孤立や悩みに寄り添う支援の充実が求められています。

また、子どもや若い世代の生活習慣にも課題があり、朝食を抜いたり、食事バランスを欠いたりする傾向が見られ、将来的な生活習慣病リスクにつながっています。郷土料理や地産地消を生かした食育をどう生活の中に根づかせるかも重要な課題です。

健康づくりは一人の暮らしを守るだけではありません。人と人とのつながりを支え、地域に元気を生み出し、未来の世代に笑顔をつなぐための土台です。健康であることが町の力となり、住み続けたいと思えるまちづくりにつながっていきます。久万高原町にとって健康づくりは、まさに未来への大切な投資なのです。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

平均自立期間（歳）

男性 80.1  
女性 84.5  
(R5年度)

延伸  
(R12年度)

## ◆◆施策内容◆◆

- ①第3期久万高原町健康づくり・食育推進・自殺対策総合計画に基づき、住民主体の心身の健康づくり・食育推進活動を促進します。また、関係機関と情報共有及び連携し、地域の力を活用した普及啓発活動や自然に健康になる環境づくりを推進します。
- ②健診や各種がん検診の受診を促進し、結果に基づいた個別指導やフォローアップによる生活習慣病の発症予防・重症化予防に取り組むとともに、その他健康づくりのための健康教育、健康相談等の充実に努めます。
- ③住民が主体的に社会に参加しながら支えあい、コミュニティや人とのつながりを深めるとともに、こころの健康相談窓口の周知やゲートキーパー養成等、悩みを抱える人が孤立せずに支援につながれる体制を強化します。
- ④住民が産地や生産者を意識して農産物等を選び地産地消を推進するとともに、地域や家庭で受け継がれてきた郷土料理等伝統的な食文化の継承につなげ、次世代につながる食育活動を推進します。
- ⑤自殺対策大綱の理念に沿い、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指して、関係機関と連携を図りながら、総合的な自殺対策の取組を行います。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

特定健診の受診率	%	52.6 (R5年度)	>	60.0 (R12年度)
特定保健指導実施率	%	77.9 (R5年度)	>	85.0 (R12年度)
脳血管疾患の年齢調整死亡率	人口 10万人 対	男性 100.2 女性 102.5 (H30～R4)	>	100 未満
心疾患の年齢調整死亡率	人口 10万人 対	男性 127.0 女性 129.1 (H30～R4)	>	100 未満
自殺死亡率	人口 10万人 対	41.99 (R6年)	>	30.83 以下 (R12年度)

関連計画

久万高原町健康づくり・食育推進・自殺対策総合計画



# 1 学校教育

## ◆◆方向性◆◆

小規模校の強みを生かしつつ、学びの保障と支援を充実させ、地域とともに子どもたちの未来を育みます。

## ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の小さな学校の教室では、一人ひとりの声がしっかりと届きます。少人数だからこそ、先生は子どもの表情を見ながら寄り添い、タブレットを片手に自分のリズムで学ぶ姿も見られるようになってきました。友達の思いを想像し、いじめをしないでいようとする気持ちが育ってきたのも、人権教育を大切にしてきた成果です。

しかし「勉強がどうしても苦手つまずいてしまう子」がいることも事実です。不登校の子どもへの対応も、学校だけでは限界があります。ICTを使いこなす先生とそうでない先生の差も広がり、教育の力を均等に届ける難しさが見えてきました。

地域とのつながりも、学校を支えてきました。学校のコミュニティスクール化や木育の推進など、久万高原らしい活動は、子どもたちに「自分の町を誇れる気持ち」を芽生えさせています。上浮穴高校振興対策の成果としては町外からの生徒も増え、星天寮には全国から集まった仲間たちの声が響き、そのにぎわいは心強いものです。

一方で、地元で進学する子どもたちをどう支えていくか、その視点はまだ十分とは言えません。人口減少が進み、学校の数を今のまま残すのは難しいのではないかという現実も、目の前に迫っており、学校等のあり方の検討も始まっています。

また、子どもたちの学びを支えるには、教師自身の学びも欠かせません。教員の自主研修や地域人材の活用は始まっていますが、習熟度の差や負担感も残ります。

教育環境をどう整えていくか。これは町全体で考えていくべき大きな課題であり、町全体で知恵を重ねながら、一人ひとりの学びを支えたその先で、子どもたちの笑顔が、久万高原町の未来をやさしく照らしてくれるはずです。

## ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

愛着を感じている中学生の割合  
(%)

67.0  
(R6 年度)

80.0  
(R12 年度)

## ◆◆施策内容◆◆

- ①人権教育を核に、豊かな感性と思いやりの心、自己肯定感を育み、子どもが自分で考えたくましく生きるための環境を守ります。また、いじめや不登校の防止、特別支援教育の充実、災害に強い学校づくりなど安心して通える学校環境を整えます。
- ②木のぬくもりや自然の豊かさに触れたり、地域の農家や林家、文化財に詳しい人の講義や職業体験などの「地元学」を通じて、子どもたちが自分の町を深く知り、愛着と誇りを育てます。運動会や発表会など地域が参加する学校行事を支え、学校・家庭・地域が一体となった地域とともに育つ教育を進めます。
- ③人口減少が進む中、学校等のあり方の検討を行い、小規模校として良さを生かしつつ、将来を見据えた確かな学力を養うことを目的に、英語教育に特化した「英語教育教科モデル校」を指定し、「英語特化の学びの環境」を段階的に整備推進していきます。
- ④「小さな松下村塾（久万高原版 STEAM 塾）」として、久万高原町のミュージアムや大学等と連携し、科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、芸術・リベラルアーツ (Art)、数学 (Mathematics) の分野を統合的に学ぶ STEAM 教育<sup>※14</sup>を推進します。
- ⑤少人数をいかした個別学習に加え、令和7年度からの新端末移行をスムーズに進め、ICTを活用した授業改革を深めます。教師の研修や情報共有を重ね、どの子どもにも学ぶ力を届けます。
- ⑥日常的な運動習慣や食育の取組を進め、心身ともに健やかな子どもの育成を目指します。
- ⑦上浮穴高校の魅力を高め、星天寮を拠点とした全国からの受け入れを進めつつ、地元進学を選ぶ子どもへの支援や学びの環境を整えます。



<sup>14</sup> 「STEAM 教育」とは、「科学 (Science)」「技術 (Technology)」「工学 (Engineering)」「芸術・リベラルアーツ (Art)」「数学 (Mathematics)」の5つの分野を統合的に学ぶ教育のことです。文部科学省は「STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics)」に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理などを含めた広い範囲で「A (Arts)」を定義し、学んだことを実社会での問題発見や解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています。

◆◆成果指標（K P I）◆◆

いじめ認知件数	件	14 (R6 年度)	➤	20 (R12 年度)
不登校児童生徒の割合	%	4.4 (R6 年度)	➤	2.0 (R12 年度)
自然体験学習や地域学習の授業実施達成率 (年 10 回以上)	%	50.0 (R6 年度)	➤	80.0 (R12 年度)
地域参画型学校行事(運動会・発表会等)の開 催達成率(年 5 回以上)	%	40.0 (R6 年度)	➤	80.0 (R12 年度)
中学生の英検 3 級以上取得率	%	8.0 (R6 年度)	➤	30.0 (R12 年度)
STEAM 教育プログラムの実施回数	回	6 (R6 年度)	➤	8 (R12 年度)
教職員 I C T 研修参加率	%	60.0 (R6 年度)	➤	80.0 (R12 年度)
食育授業・活動実施回数 (1 校当たり)	回	3 (R6 年度)	➤	6 (R12 年度)
県外からの入学者数	人	10 (R6 年度)	➤	15 (R12 年度)
地元中学生の上浮穴高校進学希望率	%	40.0 (R6 年度)	➤	60.0 (R12 年度)

関連計画

久万高原町教育の大綱／久万高原町教育行政要覧／教育の基本計画／  
久万高原町通学路交通安全プログラム／久万高原町学校施設の長寿命化計画







## 2 学校給食

### ◆◆方向性◆◆

安全でおいしい給食を基盤に、町の食育をさらに広げていきます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の給食は、子どもたちの心と体を育てる「もう一つの教室」です。毎日届くあたたかい給食には、成長に必要な栄養と、郷土の恵みや人の思いが盛り込まれています。アレルギー対応や衛生管理の工夫で、誰もが安心して一緒に食卓を囲める時間が守られてきました。給食を通じて「旬を知る」「地域を知る」「感謝を知る」経験が、家庭にも広がり、暮らしを少しずつ変えています。

けれど、その裏側には見えにくい課題が山積しています。栄養バランス、子どもの好み、コスト、アレルギー対応、地産地消。これらを全部考えながら献立を組み立てる栄養教諭の仕事はとても複雑で、負担が重くのしかかっています。食材費の高騰で「質を守るか、経費を抑えるか」の板挟みに悩むことも増えました。

さらに、給食をつくる現場も変化に直面しています。美川学校給食センターは老朽化が進み、衛生面・効率面での対応に限界が近づいています。調理員の確保や技術継承も課題です。一方で、子どもたちにとって給食は「友達と語らいあう大事な時間」であり、給食を通じて育まれる協調性や社会性もかけがえのないものです。地域の農家や生産者と結びつく機会もあるものの、安定的に地場産物を供給する仕組みはまだ十分ではありません。

「給食はただの食事ではなく、町の教育であり、地域づくりの入口でもある」

そう気づきながらも、それを持続的に支える仕組みや人材、施設のあり方が問われています。だからこそ今、子どもたちの健やかな成長とまちの未来を支える力強い給食をどう育てていくかが、大きな挑戦となっています。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①家庭や地域との連携を強化し、献立や食育の情報を発信して、家庭でも健康的な食習慣が広がるようにします。
- ②地域の農家や直売所と連携し、旬の地場産物や郷土料理を給食に積極的に取り入れます。生産者と子どもたちの交流を進めるとともに、規格外野菜や余剰農産物の活用を通じて食品ロス削減を図り、米粒を残さないなど伝統的な食文化の継承につなげます。
- ③調理員の研修や働きやすい環境整備を進め、専門性の高い人材を育成します。老朽化が進む施設設備等の更新についても検討します。
- ④アレルギー対応をさらに充実させ、個々のニーズに応じた安心できる給食体制を整えます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

学校給食残飯率	%	20.0 (R6 年度)	➤	0 (R12 年度)
地場産物使用割合	%	49.0 (R6 年度)	➤	60.0 (R12 年度)
調理員研修参加率	%	60.0 (R6 年度)	➤	80.0 (R12 年度)
アレルギー対応食の提供件数	件	8 (R6 年度)	➤	4 (R12 年度)

関連計画

学校給食の基本計画





## 3 生涯学習

### ◆◆方向性◆◆

学びを通じて人をつなぎ、地域の誇りと未来を育む生涯学習を進めます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の生涯学習は、公民館や図書館をはじめとする拠点で、多世代がつどい、学び、つながる場を育んできました。町内には中央公民館を含め4地区館と27の分館があり、運動会や文化活動、ボランティア活動に至るまで、まちのあちこちにある「学びの場」で、子どもから高齢者までが関わりあう姿がありました。

しかし、人口減少や高齢化が進む中で、分館の老朽化や地域人材の不足により、公民館活動の灯りが少しずつ弱まりつつあります。かつてにぎわった学習会も人が集まらなくなり、停滞感が漂っています。図書館も利用者数は年々減少し、読み聞かせや科学教室を開催しても参加者は数人にとどまるなど、学びの場が十分に生かされていません。

「つどい・まなぶ・おすぶ」の場だった公民館も、人口構造の変化や価値観の多様化の中で、その役割を果たしにくくなっています。地域のつながりが弱まり、コミュニティの衰退が進むことで、「学び」が地域づくりを支える力を発揮しづらい状況です。

それでも、地域にはまだ可能性があります。ふるさとを知り、語れる「地創塾」を住民全体に広げること。学校教育や地域活動とつながりながら、世代を超えて学びあう土壌を育てること。防災拠点や交流の場としての公民館を、暮らしの安心につなげること。施設の老朽化や人材不足は大きな課題ですが、「学びが人を結び、地域を元気にする力」を信じて次の一歩を考えるとときが来ています。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①公民館や図書館等を地域のセンターとして再編し、施設と組織の最適化を進めます。老朽化した施設は計画的に更新し、避難所としての役割も意識した運営を行います。
- ②地域運営協議会とも連携しつつ、地域の農家や林家、文化財に詳しい人材を講師とする「地元学」を広げ、子どもから大人まで町の魅力を学ぶ機会をつくります。STEAM 教育の視点を取り入れ、農業・林業・食文化などを題材にしたワークショップを展開し、学校・家庭・地域がつながる学びを地域活動や世代間交流につなげます。地域ぐるみで子どもたちの育ちと学びを支えながら、子育ての悩みや不安を抱える家庭をサポートします。住民一人ひとりが「自分の町を誇れる力・語れる力」を育てます。
- ③誰もが参加したくなる魅力的な学習会を企画し、SNSや広報誌など多様な媒体で周知します。図書館では移動図書館を活用し、学びの機会を町内全域に届けます。
- ④社会教育団体やNPO、地域運営協議会との連携を強め、地域課題の解決に向けた学習を提供します。地域のリーダーを育てる研修や勉強会も継続的に行います。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

町内公民館の年間利用回数	回	約 2,200 (R6 年度)	➤	2,200 (R12 年度)
社会教育施設（公民館・図書館等）の修繕実施件数	件	12 (R6 年度)	➤	12 (R12 年度)
地元学をテーマにした学習会開催数	回	8 (R6 年度)	➤	12 (R12 年度)
家庭教育を支援する学習講座・親子参加型プログラムの実施回数	回	43 (R6 年度)	➤	43 (R12 年度)
地域学校協働活動等に参加したボランティアの延べ人数	人	2,360 (R6 年度)	➤	2,360 (R12 年度)
学習会行事の広報媒体での周知回数（HP、SNS、広報誌など）	回	13 (R6 年度)	➤	13 (R12 年度)
図書館の年間来館者数	人	約 9,800 (R6 年度)	➤	9,800 (R12 年度)
図書館年間利用資料数	点	約 31,000 (R6 年度)	➤	31,000 (R12 年度)
地域リーダー研修・人材育成プログラム参加者数	人	5 (R6 年度)	➤	10 (R12 年度)

### 関連計画

久万高原町教育の大綱／久万高原町教育行政要覧／

久万高原町子ども読書活動推進計画／久万高原町公共施設個別施設計画



## 4 スポーツ・レクリエーション

### ◆◆方向性◆◆

身近にスポーツを楽しめる環境を守り、町の自然や文化を生かしたプログラムを広げ、誰もが安心して体を動かせるまちをつくります。

### ◆◆現状と課題◆◆

標高の高い涼やかな気候と、豊かな自然に囲まれた久万高原町では、ラグビー場や体育館、ゲートボール場などで、これまで多くの大会やイベントが開かれ、町内外から集まった人々の声が響いてきました。特に夏の合宿地としては「高原ならではの環境」が強みで、全国の学生や選手が訪れています。さらに、ヒルクライム大会やマラソン大会といった地域資源を生かしたスポーツイベントは、町の知名度を高める役割も果たしています。

しかし、施設の老朽化は待ったなしの課題となっており、安全性や快適性への不安が高まっています。修繕は部分的に行われてきましたが、根本的な改善には至っていません。人口減少や高齢化により、運動を始めるきっかけを持たない人も増えています。障がいのある人の参加を支える体制や、運営を担うボランティア確保の難しさも見えています。

それでも、自然環境を生かしたイベントや合宿誘致の可能性、地域住民同士のつながりを強める力としてのスポーツの価値は揺らいでいません。スポーツを通じた交流と健康づくりは、まちに活力を与える大きな力として、これからの時代にふさわしいスポーツ環境を町全体で築いていくことが求められています。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ① 体育施設の利用頻度や機能を踏まえ、老朽化対策と安全性向上を進め、災害時の避難所機能も含めた効率的な管理運営を目指します。整備した施設は、住民の健康づくりや日常利用を支えるとともに、合宿やイベントの開催に生かします。
- ② 住民が日常的に運動を始めやすいプログラムを企画し、世代や特性に応じた運動習慣を広げます。
- ③ 障がいのある人もともに楽しめるユニバーサルなスポーツ環境を整え、支援ボランティアの育成や研修を充実させます。
- ④ 涼しい気候を生かし、ラグビーを中心に全国からのスポーツ合宿を誘致します。人工芝などの環境整備を進め、サッカーなど多様な競技にも広げます。さらに、ヒルクライムやマラソン大会といった久万高原ならではのイベントを発展させ、合宿・大会の誘致と合わせて交流人口の拡大につなげます。
- ⑤ 地域住民の健康づくりと交流を支えるため、広報や情報発信を強化し、住民参加を促します。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

公共スポーツ施設の修繕・改修件数	件	16 (R6 年度)	➤	20 (R12 年度)
災害時避難所機能を持つ施設数	施設	4 (R6 年度)	➤	5 (R12 年度)
町主催・共催のスポーツプログラム開催回数	回	6 (R6 年度)	➤	8 (R12 年度)
障がい者スポーツプログラム開催回数	回	0 (R6 年度)	➤	1 (R12 年度)
スポーツ合宿・大会誘致件数	件	6 (R6 年度)	➤	8 (R12 年度)
スポーツ合宿・大会による延べ宿泊者数	人	928 (R6 年度)	➤	1,818 (R12 年度)
スポーツイベントに関するSNS発信回数	回	0 (R6 年度)	➤	1 (R12 年度)
スポーツイベントに関するSNS発信リーチ数	件	0 (R6 年度)	➤	30 (R12 年度)

### 関連計画

久万高原町教育の大綱／久万高原町教育行政要覧／中長期財政計画／  
久万高原町地域福祉計画／久万高原町保健福祉計画・介護保険事業計画／  
久万高原町障がい者基本計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画／  
久万高原町スポーツ推進計画



## 5 文化(財)活動

### ◆◆方向性◆◆

町に息づく文化財や郷土芸能を守り育て、住民と来訪者が誇りを共有できる文化活動を広げます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町には、国史跡「上黒岩岩陰遺跡」や「猿楽遺跡」、名勝「面河溪」「古岩屋」、そして四国霊場として名高い「菅生山大寶寺」「海岸山岩屋寺」など、我が国の歴史や文化を紐解く上で大変貴重な文化財や名所が残されています。これらは町の誇りであり、次代に受け継ぐべき地域資源です。町では『史跡上黒岩岩陰遺跡保存活用計画書』を策定し、出土品の把握や旧山中家住宅の管理など、保存と継承の取組を続けてきました。しかし、財政的制約や体制の変化により、十分に進められていない事業も残されています。

こうした文化財を守るだけでなく、住民や来訪者が触れることで価値を実感できる「活用」も重視されています。学校を中心に上黒岩岩陰遺跡を学ぶ機運が高まっており、地域の誇りを広く共有する気運の醸成が大切です。

また、川瀬歌舞伎や文化協会による文化祭・芸能発表会など、住民の手で大切に守り育てられてきた無形文化が、地域や学校などに息づいています。担い手不足や活動継続への課題はあるものの、一つひとつが町の誇りであり、地域の絆を深める力を持っています。

さらに、世界に誇る洞穴研究者・山内浩氏の功績や、明治期に「天下第一ノ絶景」と称された面河溪に魅せられた文人墨客の足跡など、物語として光を放つ資源も豊富です。近年では「東京ラブストーリー」のロケ地など、現代文化とつながる資源もあるため、これらを教育や観光、地域ブランドとして生かすことで、久万高原ならではの魅力をさらに輝かせていくことができます。

山々に息づく伝統や祈りは、静かに、確かに受け継がれています。文化財も芸能も、次代の手に託すとき、久万高原町の暮らしは、より豊かに彩られていくでしょう。

### ◆◆まちづくり指標 (KGI) ◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①四国霊場「大寶寺」「岩屋寺」という町を代表する信仰の拠点を、歴史的・文化的価値を踏まえて保存・活用し、巡礼文化を次世代に継承するとともに、観光や交流の柱として高めます。また、国史跡「上黒岩岩陰遺跡」は全国的にも貴重な考古学的遺産であり、保存・研究・展示を一体で進め、子どもから大人まで学べる機会を拡充して、その価値を広く発信します。
- ②面河溪・古岩屋などの名勝や指定文化財を適切に保全し、自然や歴史を体感できる学習・観光資源として磨きをかけます。
- ③川瀬歌舞伎をはじめとする無形文化財の継承を支援するとともに、町ゆかりの人物の偉業や足跡を題材にした文化活動を広げ、地域の誇りを再発見する取組につなげます。
- ④文化協会や地域団体による文化祭・芸能発表会などの活動を支援し、住民が参加しやすい場を継続するとともに、デジタル発信や観光との連携により町の魅力を広く発信します。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

上黒岩岩陰遺跡見学・展示利用者数（博物館・現地）	人/年	1,117 (R6 年度)	>	1,500 (R12 年度)
名勝・指定文化財現地ガイドツアー・学習プログラム実施回数	回	1 (R6 年度)	>	2 (R12 年度)
指定文化財件数	件	94 (R6 年度)	>	100 (R12 年度)
名勝・指定文化財保全事業（修繕・景観維持）実施件数	件	2 (R6 年度)	>	5 (R12 年度)
郷土芸能後継者数	人	67 (R6 年度)	>	67 (R12 年度)
指定文化財団体	件	7 (R6 年度)	>	10 (R12 年度)
文化協会加盟団体数	団体	46 (R6 年度)	>	46 (R12 年度)
文化祭・芸能発表会の延べ参加人数（出演者＋観客）	人	約 8,500 (R6 年度)	>	8,500 (R12 年度)
文化財や芸能に関する広報・SNS発信回数	回	12 (R6 年度)	>	15 (R12 年度)
文化財や芸能に関する広報・SNS発信のリーチ数（閲覧数・配布部数など）	回	4,400 (R6 年度)	>	6,000 (R12 年度)

### 関連計画

久万高原町教育の大綱／久万高原町教育行政要覧／  
史跡上黒岩岩陰遺跡保存活用計画書



## 6 人権の尊重

### ◆◆方向性◆◆

すべての人が尊重され、安心して自分らしく生きられるまちを、人権教育と啓発の両輪で実現します。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、学校や地域の集まり、公民館の学習会や人権啓発フェスティバルなどを通じて、人権について考える場を大切にしてきました。障がいや高齢、男女のこと、多文化共生など、さまざまなテーマを取り上げ、行政や地域団体、福祉施設が力を合わせることで、「人を思いやるまちの雰囲気」は少しずつ育ってきています。

これまでに積み上げてきた基盤をさらに広げていくためには、若い世代や子育て中の人、働き盛りの人にも参加してもらえるような工夫が必要です。また、「同和問題を含め人権は今も続く学びのテーマ」であることを、わかりやすく伝え続けることが求められます。

また、町の職員研修は広がり、住民対応での配慮や意識は少しずつ高まっていますが、「人生の中で人権を学び続ける」気持ちを持ち続けるのは簡単ではありません。今後は新しい発信方法を取り入れることで、参加の裾野をさらに広げ、日常的な学びや行動につなげていくことが期待されます。

学びの場で当事者の声や身近な事例に触れることで「自分も考えなきゃ」と感じる人が確実に増えてきています。世代や立場を超えて「誰もが大切にされるまち」を育てていくことが、これからの久万高原町にとって欠かせない歩みです。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①学校・地域・職場が連携し、人権教育を計画的に推進します。特に日本の歴史的背景から生まれた同和問題をはじめ、性的マイノリティ<sup>※15</sup>、高齢者、障がい者、外国人、感染症関連（差別）、インターネット上の人権侵害、災害時の人権といった多様な課題をDE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）<sup>※16</sup>の視点から包括的に捉え、時代とともに変化する人権理解を深めます。
- ②人権啓発フェスティバルや地域行事と連動させ、障がいや高齢、男女共同参画など日常に身近なテーマを自然に取り上げ、暮らしの中で「思いやりの心」が育まれる仕組みをつくります。
- ③行政職員に対する人権研修を継続的に実施し、住民に寄り添った対応や配慮ができる体制を強化します。
- ④住民の声や地域の特性を反映した啓発イベントを住民と協働して企画し、町全体で「守るべき文化と、多様性を尊重する姿勢」を両立させる人権啓発を進めます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

人権学習会の開催回数	回	11 (R6 年度)	>	11 (R12 年度)
人権学習会の参加者数	人	240 (R6 年度)	>	300 (R12 年度)
人権学習会における若年層・子育て世代の参加割合	%	40 (R6 年度)	>	50 (R12 年度)
人権啓発フェスティバルや地域行事の開催回数	回	10 (R6 年度)	>	10 (R12 年度)
人権啓発フェスティバルや地域行事の参加人数	人	830 (R6 年度)	>	900 (R12 年度)
人権に関する職員研修の実施回数	回	7 (R6 年度)	>	7 (R12 年度)
啓発イベントにおける住民参画数(企画・運営への参加人数)	人	68 (R6 年度)	>	90 (R12 年度)

### 関連計画

久万高原町教育の大綱／久万高原町教育行政要覧／  
久万高原町人権教育協議会基本方針

<sup>15</sup> 「性的マイノリティ」とは、何らかの意味で「性」や「性別」のあり方が多数派と異なる人のことです。一般的にLGBTQ（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・クエスチョニング・クィア）の人などが含まれます。性的指向（Sexual Orientation）と性自認（Gender Identity）の頭文字をとって、SOGI（ソジ）と表現することもあります。

<sup>16</sup> 「DE&I（Diversity, Equity & Inclusion）」とは、年齢・性別・障がい・国籍・価値観など、一人ひとりの違いを尊重し、誰もが公平に機会を得ながら、自分らしく活躍できる社会や組織を目指す考え方です。単に「多様な人がいる」だけでなく、それぞれが孤立せず、能力や個性を発揮できる環境づくりを重視しています。



## 7 男女共同参画

### ◆◆方向性◆◆

男女がともに尊重され、家庭・地域・職場のあらゆる場面で自分らしく活躍できるま  
ちを目指します。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、これまで家庭や地域、職場などで「男性の方が優遇されている」と感じる住民は少なくありません。特に「社会通念や慣習」による男女差別や、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な役割意識が、まだ生活の中に残っています。

一方で、人口減少や少子高齢化が進む久万高原町において、男女を問わず一人ひとりが力を発揮できる環境づくりは欠かせません。子育てや介護の負担を男女で分けあうこと、地域や職場で女性も意思決定に参画することが、まちの未来を支える大切な柱となります。

アンケートでは、審議会など意思決定の場に女性の声が届きにくいことや、職場での女性管理職の少なさも課題として挙がっています。また、DVやハラスメントに関する相談体制も、より身近で安心できる仕組みが必要とされています。

けれど、意識は少しずつ変わり始めており、町の施策や研修を通じて「男女は対等である」という考え方が広がり、学校や地域でも子どもたちが体系的に学び始めています。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

意思決定の場における女性参画率  
(%) (審議会等登用率)

20.0  
(R6 年度)

25.0  
(R12 年度)

## ◆◆施策内容◆◆

- ①子育てや介護の負担を分かちあえるよう、家庭・地域・職場での環境づくりを進めます。愛媛県事業「ひめボス<sup>※17</sup>」などを活用し、家庭と仕事の両立を支える働き方改革を広げ、男女ともに活躍できる職場環境を整えます。
- ②女性の起業やキャリア形成を応援し、新しい産業や地域ビジネスを生み出す環境を整え、女性活躍社会の推進につなげます。
- ③審議会や地域団体における女性の参画を推進し、意思決定の場に多様な声を反映します。
- ④DV・性暴力・ハラスメントの防止に向けて、相談体制の充実と啓発を強化します。
- ⑤学校教育や地域学習を通じて、子どもや若者に男女共同参画の視点を自然に育てます。
- ⑥男女共同参画に関する学習会や研修を充実させ、固定的な性別役割分担を見直す意識を広げます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

性別的役割の肯定率（男性／女性）	%	19.3/29.0 (R6 年度)	>	15.0/15.0 (R12 年度)
女性起業者数	人	未調査 (R6 年度)	>	1 (R12 年度)
町の政策に女性意見が反映されていると感じる率	%	45.4 (R6 年度)	>	60.0 (R12 年度)
役場の女性管理職比率（課長／課長補佐相当職）	%	9.09/18.18 (R6 年度)	>	23.0/25.0 (R12 年度)
DV・性暴力・ハラスメントに関する相談件数	件	2 (R6 年度)	>	1 (R12 年度)
男女共同参画に関する広報・SNS発信回数	回	1 (R6 年度)	>	6 (R12 年度)
男女共同参画に関する研修会の開催回数	回	1 (R6 年度)	>	4 (R12 年度)

### 関連計画

久万高原町男女共同参画推進計画／久万高原町特定事業主行動計画

<sup>17</sup> 「ひめボス（ひめボス宣言事業所認証制度）」は、女性活躍の推進や仕事と家庭の両立支援、男女ともに働きやすくやりがいをもって就業できる職場環境の整備を推進する事業所を愛媛県が認証する制度です。



# 1 環境美化・保全

## ◆◆方向性◆◆

川と山の自然を守り、住民が誇れる美しい環境を次世代へ引き継ぎます。

## ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の自然は面河溪や石鎚山など人の手があまり入っていない奥山だけでなく、人々が暮らす里山でもその固有性が注目されています。中心部に近い久万公園では、人々がレクリエーションに集うすぐそばに、キンランやササユリなどの希少種が見られ、観光客でにぎわう久万高原ふるさと旅行村では、600種を超える植物が確認されており、そこには希少なランの仲間など愛媛県レッドリスト掲載種13種も含まれています。こうした姿は、まちの人々が自然と共生している証でもあります。

一方で、このような価値ある生物多様性の保全については取組がまだ断片的で、守るべき自然の実態は十分には把握できていません。

住民による清掃活動や環境美化の声は自治会を中心にあげられ、実際に草刈りや川岸のゴミ拾いなどが行われているものの、頻度や範囲は限られています。自然の豊かさを守る力を町全体で維持・拡大するには、まだまだのびしろがあります。

だからこそ、川と山の両方で豊かな自然を守り、美しい風土を未来に手渡していく責任を、町全体で共有し、行動を広げていく必要があります。

## ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①川と山双方の生物相調査を定期的実施し、希少種等の保全を視野に入れたモニタリング体制を整えます。
- ②森林の間伐や下草刈りを計画的に進め、生態系と景観を維持します。
- ③環境美化推進条例と景観計画を基盤に、自治会・住民・事業者と連携して清掃活動やごみ減量、不法投棄防止に取り組みます。さらに、間伐材や里山資源のリユースなど、自然資源を生かした循環型の取組を広げ、地域の風景と暮らしの豊かさを未来につなぎます。
- ④学校や地域団体と協働した環境教育・体験活動を通じて、自然を大切にする意識と担い手を育てます。

## ◆◆成果指標（K P I）◆◆

川と山の生物相調査実施回数	回	6 (R6 年度)	➤	6 (R12 年度)
森林手入れ作業（間伐・下草刈り等）の実施面積	m <sup>2</sup>	287/161.27 (R6 年度)	➤	300/170 (R12 年度)
清掃活動実施回数	回	12 (R6 年度)	➤	12 (R12 年度)
資源ごみの年間リサイクル率	%	22.6 (R6 年度)	➤	22.7 (R12 年度)
自然体験・学習イベント実施回数	回	5 (R6 年度)	➤	7 (R12 年度)
自然体験・学習イベント参加者数	人	50 (R6 年度)	➤	70 (R12 年度)

関連計画

久万高原町景観計画／久万高原町環境美化推進条例



## 2 再生可能エネルギー

### ◆◆方向性◆◆

エネルギーの地産地消や省エネルギーの推進を図ることで、住民一人ひとりの生活の質が向上し、豊かに暮らすことのできる快適なまちづくりを目指します。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町は、古くから林業を主要産業として発展し、町の総面積の約9割を森林が占めています。この豊かな森林が、二酸化炭素を吸収することですでにカーボンニュートラル<sup>※18</sup>を達成しており、令和5年3月にゼロカーボンシティであることを宣言しました。しかしながら、全国の中山間地域に共通する少子高齢化や生産年齢人口の流出、それに伴う担い手不足が深刻な問題です。さらに、環境省の地域経済循環分析によれば約13億円のエネルギー代金が町外へ流出しており、豊富な森林資源を生かした町内での「エネルギーの地産地消」の取組が急務となっております。

久万高原町には、豊富な森林資源をはじめとする自然の力が息づいており、山に眠る林地残材を有償化し、木質バイオマス発電や水力発電などの再生可能エネルギー導入に大きな可能性を秘めています。これにより、エネルギーの地産地消を推進し、地域経済の好循環を図ることができます。特に木質バイオマス発電は、天候に左右されず地域のベースロード電力として安定供給が可能です。この再生可能エネルギーの導入・推進は、エネルギーの地産地消を実現するだけでなく、林業地帯ならではの高利益的な関連サプライチェーンを構築し、地域経済の好循環を図ることができます。加えて、林地残材の活用は、土砂災害の未然防止や被害拡大の抑止にもつながることが期待されます。

すでにカーボンニュートラルを達成しているこの町のエネルギー政策は、単なる環境対策に留めるのではなく、この強みを生かし、地域に「エネルギー」を、そして「仕事」と「豊かさ」という活力を生み出す<sup>※19</sup>ことで、地域経済の活性化と、災害レジリエンス（防災力・復元力）の強化による安全・安心の確保を両立させる、持続可能なまちづくりの新たな役割として進めてまいります。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



<sup>18</sup> 「カーボンニュートラル」とは、二酸化炭素などの温室効果ガスの「排出量」から、植林や森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、温室効果ガスを実質的にゼロにする取組です。

<sup>19</sup> 「地域にエネルギー・仕事・豊かさを生み出す」とは、再生可能エネルギーの地産地消や関連産業の育成により、地域内での経済循環を高める取組を指します。また、エネルギー自給力の向上により、災害時の電力確保や復旧力の強化につながることを意味します。

## ◆◆施策内容◆◆

- ①国や県の補助制度、民間企業の資金を活用し、水力、木質バイオマス、風力など多様な再生可能エネルギー設備を計画的に導入します。町内でつくったエネルギーを町内で消費する仕組みを整え、エネルギー代金の域外流出を防ぎ、地域経済の循環を促進します。
- ②「伐って、使って、植えて、育てる」の循環を基本に、森林資源の計画的な利用と再生を進めます。CO<sub>2</sub>吸収源としての機能を維持しつつ、林業の成長産業化を図り、雇用や地域収益を支える柱とします。
- ③電気自動車や省エネ住宅の普及を支援し、住民生活に直結する分野から温室効果ガス削減を図り、快適で健康的な住環境を整備します。
- ④町役場や公共施設に太陽光発電を整備するとともにLED化やEV導入を進め、行政自らが率先して環境配慮型の行動を示し、住民や事業者の取組をけん引します。
- ⑤猛暑・豪雨などの気候変動リスクを踏まえ、水害・土砂災害対策や健康被害予防を強化します。防災と健康づくりを一体的に推進し、安全・安心な生活基盤を確保します。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

再生可能エネルギーの地産地消	MWh/ 年	0 (R6年度)	➤	18,058 (R12年度)
CO <sub>2</sub> 排出削減量	t-CO <sub>2</sub>	53.1千 (R1年度)	➤	33.1千 (R12年度)
乗用車のEV化に対する支援	台	3 (R6年度)	➤	5 (R12年度)
公共施設における太陽光発電量	MWh/ 年	31 (R6年度)	➤	268 (R12年度)
公共施設における再エネ電力の調達率	%	0 (R6年度)	➤	60.0以上 (R12年度)
公用車のEV化率（代替可能な公用車）	%	5 (R6年度)	➤	100.0 (R12年度)

関連計画

久万高原町地球温暖化対策実行計画



### 3 移住・定住・関係人口増進

#### ◆◆方向性◆◆

町の魅力や産業と結びついた移住・定住の流れを育み、自然とともに生きる豊かな暮らしと人の循環を広げます。

#### ◆◆現状と課題◆◆

都市部の移住フェアでは、多くの方が久万高原町の魅力に耳を傾け、パンフレットを手にしてくれます。町内に配置された移住支援員は、相談者一人ひとりの事情に寄り添い、安心して新しい暮らしを描けるよう支えています。SNSや広報を通じてまちの魅力を発信し続けてきたことで、少しずつですが「久万高原町を知っている」という人の輪は広がりつつあります。

一方で、お試し住宅の運営では、利用者と町の期待のずれからトラブルも生じました。移住支援の拠点として期待された分、活用のあり方を問い直す時期に来ています。町内外の人材が集う中間支援組織「ゆりラボ」からは、イベントや新しい事業が生まれるなど明るい兆しもありますが、参加者が固定化しがちで広がりには課題があります。また、ふるさと納税は関係人口拡大の指標として確実に伸びていますが、さらなる工夫が必要です。

婚活イベントでは町の施設を活用して出会いの場を創出していますが、地元参加者は限られており、近隣市町との連携をどう深めるかが今後の課題です。お金で人を呼び込むのではなく、まちの産業や魅力に共感して移り住む人を増やすこと、そして一度外に出た若者が「やはり久万高原町は良い」と戻ってくる流れをどうつくるかが問われています。

町に根を張る人と新たに訪れる人が交わり、久万高原町の自然や暮らしを次の世代へつなげていく物語を、一歩ずつ紡いでいかなければなりません。

#### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①移住支援員を中心に、相談対応や情報提供を強化し、Uターン希望の若者をはじめとする移住希望者が安心して新生活を始められる支援体制を整えるとともに、住み続けるために必要な施策についてもあわせて取り組めます。
- ②SNSやウェブサイトを活用し、町の魅力を継続的かつ効果的に発信します。都市部での移住フェアや情報発信イベントとも連動させ、関係人口の拡大を図ります。
- ③お試し住宅に代わる新たな移住体験の場を検討し、町の暮らしをリアルに感じられる機会を提供します。単なる短期滞在にとどまらず、都市と久万高原町を行き来する二拠点生活（デュアルライフ）の試行や、子どもが一定期間だけ町の学校に通うデュアルスクールの実践などを通じて、「ここで暮らす」感覚を家族ぐるみで体験できる仕組みを整えます。
- ④農業や林業など、町の基幹産業を担う人材の移住を重点的に支援し、担い手不足の解消と定住につなげます。
- ⑤ふるさと納税を通じた関係人口の増加を推進するとともに、近隣市町と連携した婚活イベントを充実させ、町内外の人々の交流を促進します。あわせて、地域課題や課題解決に向けた取組を地域外へ積極的に発信することで、多様な働き方をする人々とのつながりを広げ、地域に新しい視点や活力を取り込む環境を整えます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

移住相談件数	件	224 (R6 年度)	➤	維持 (R12 年度)
移住・定住に関するSNSフォロワー数	人	500 (R6 年度)	➤	1,200 (R12 年度)
移住体験プログラム参加者数	人	3 (R6 年度)	➤	6 (R12 年度)
地域おこし協力隊の採用人数	人	1 (R6 年度)	➤	6 (R12 年度)
ふるさと納税寄附件数	件	1,774 (R6 年度)	➤	4,000 (R12 年度)
婚活イベント開催回数	回	2 (R6 年度)	➤	2 (R12 年度)
婚活イベント参加者数	人	20 (R6 年度)	➤	20 (R12 年度)
広域イベントにおけるカップル成立件数	件	7 (R6 年度)	➤	10 (R12 年度)

関連計画	なし
------	----



## 4 公共交通・地域交通

### ◆◆方向性◆◆

町の実情に即した交通体系を再編し、デマンド型やデジタル活用を取り入れながら、高齢者や免許返納者を含め、誰もが安心して暮らせる移動環境を実現します。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の路線バスは、これまで住民の暮らしを支える大切な移動手段でした。近年は、運転手不足や利用者減少により、赤字路線の維持は年々難しくなっています。町では、民間路線バスの路線縮小にあわせて代替バスの運行や、新しいバス停の整備を進めるなど、地域の移動手段を確保してきました。こうした取組を進める中で、「本当に必要な場所に、必要なときに走る交通がほしい」という住民の声も寄せられています。

交通空白地では、地域運営協議会が中心となって自家用有償旅客運送を運行し、地域の支えあいの輪が広がっていますが、今後は路線バスへの接続や、ドアトゥドアの利便性を一層高めることが求められます。また、町営バスのデータを整備し、Google マップで検索できるようにもなりましたが、すべての路線が対応しているわけではなく、住民や観光客にとってはまだ使いづらい状況です。ホームページやLINEでの情報発信にも力を入れ、より便利に使える仕組みづくりを進めていく必要があります。

さらに、高齢者や免許返納者には交通利用券を交付してきましたが、居住地によって移動負担が異なることや財政負担が課題です。実際、通勤・通学の大半は自家用車の利用が多く、公共交通の利用は限られています。

だからこそ、町の交通は「守る」だけでなく「つくり変える」時期に来ています。町営バス・有償運送・デマンド型交通などを組み合わせ、ドアトゥドアサービスや時には自動運転も視野に入れながら、地域に合った持続可能な仕組みを築きます。あわせて、すべての路線でデジタル検索ができる環境を整え、誰もが使いやすい案内を整備します。そして、交通利用券制度の見直しや広域連携を進めることで、公平で安心できる移動の仕組みを整え、まちの暮らしを支える公共交通を未来へとつなげていきます。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①民間路線の見直しを契機に、町営バス・有償運送・デマンド型交通を組み合わせ、持続可能な交通体系を構築します。
- ②すべての町内路線でGTFS-JPを整備し、Google マップ等で経路検索できる環境を整えます。あわせて案内パンフレットやLINEの充実を図り、利用しやすさを高めます。
- ③高齢者や免許返納者に交付している交通利用券制度については、利用者のニーズ交通弱者を・生活困窮者など等の条件を踏まえた上で公平性と財政的持続性を確保します。
- ④ドアトゥドアサービスや自動運転バスなどAI・DXを活用した先進的な仕組みを検討し、将来の実用化を見据えた柔軟な移動手段を整えます。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

町営バスの利用者数	人	11,172 (R6年度)	➤	10,000 (R12年度)
自家用有償運送（町営バス除く）・デマンド交通利用者数	人	1,078 (R6年度)	➤	1,100 (R12年度)
GTFS-JP整備率	%	83.3 (R6年度)	➤	100.0 (R12年度)
交通利用券申請者数	人	1,294 (R6年度)	➤	1,044 (R12年度)
新規交通手段（ドアトゥドア、自動運転等）試行実施件数	件	1 (R6年度)	➤	5 (R12年度)

関連計画

久万高原町地域公共交通計画





## 5 道路

### ◆◆方向性◆◆

町内外を安全・快適に移動できる道路環境を確保し、住民の安心した暮らしと交流人口の拡大につなげます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町を縦断する国道 33 号は、松山と高知を結ぶ幹線道路として多くの車が行き交います。しかし、カーブが多く見通しの悪い区間もあり、交通安全対策は常に求められています。国道 440 号や主要地方道西条久万線も、未改良区間や狭隘道路が残り、通勤や物流、観光の妨げとなっています。四国カルスト周遊ルートに位置づけられる道路は観光客の利用も多く、安心して走れる環境整備が急務です。

町道は、生活道路として住民の暮らしを支えています。狭い道ではすれ違いが難しく、雨の日には水はけの悪さや冬の凍結も心配されます。老朽化が進む橋梁やトンネルも増え、日常点検や補修が欠かせない状況です。

だからこそ、国や県と連携して幹線道路の整備を促進するとともに、町道や橋梁を計画的に維持・改良し、誰もが安心して安全に通れる道路環境をつくっていくことが必要です。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

橋梁・トンネルの健全度Ⅱ以上の維持率（％）

橋梁  
87.2  
トンネル  
40.0  
(R6 年度)

橋梁  
90.0  
トンネル  
80.0  
(R12 年度)

## ◆◆施策内容◆◆

- ①国や県に対して、国道 33 号や国道 494 号、高知松山自動車道、国道 440 号バイパス、西条久万線など幹線道路の整備・安全対策を積極的に要望します。
- ②国道・県道を補完する町道について、狭隘道路の拡幅や線形改良、新規路線の整備を進め、地域交通を支える道路網を確保します。
- ③橋梁やトンネルの定期点検・補修を計画的に実施し、道路インフラの安全性を維持します。

## ◆◆成果指標（K P I）◆◆

国・県への要望回数	回	10 (R6 年度)	➤	15 (R12 年度)
幹線道路の改良延長	m	1,334 (R6 年度)	➤	1,500 (R12 年度)
町道の改良延長（拡幅・線形改良）	m	660 (R6 年度)	➤	1,200 (R12 年度)
新規整備路線数	路線	2 (R6 年度)	➤	4 (R12 年度)
橋梁定期点検実施率	%	100 (R6 年度)	➤	100 (R12 年度)
トンネル定期点検実施率	%	100 (R6 年度)	➤	100 (R12 年度)
橋梁・トンネル補修完了件数	件	3 (R6 年度)	➤	15 (R12 年度)

### 関連計画

久万高原町橋梁長寿命化修繕計画／久万高原町トンネル長寿命化修繕計画



## 6 生活環境

### ◆◆方向性◆◆

ごみを減らし、分けて生かす取組を広げることで、清潔で住みよいまちをつくります。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、平成 25 年度から松山市と契約を結び、可燃ごみや粗大ごみを松山南クリーンセンターで処理してきました。令和 4 年度からは松山衛生事務組合に加入し、松山衛生 e c o センターでの処理に移行し、し尿や浄化槽汚泥についても中継施設を整備して適正な処理を進めています。資源ごみについてもストックヤードを整備し、一次処理後は委託業者で処理する体制を整えてきました。その結果、ごみ総排出量は減少傾向にありますが、一人一日当たりのごみ排出量は増加に転じ、全国や県の平均を上回る状況となっており、住民の暮らしの中で「減らす工夫」が改めて求められています。

これからは、ごみの発生抑制やリデュース・リユース・リサイクル（3R）の推進をさらに広げるとともに、松山ブロックごみ処理広域化検討連絡会議（仮称）における製品プラスチック収集開始（令和 9 年 4 月予定）に向けて、分別徹底の啓発や新たな収集体制の検討が必要です。また、し尿や浄化槽汚泥処理についても、引き続き松山衛生 e c o センターとの連携のもと、施設の適正な維持管理を行うことが欠かせません。

豊かな自然と快適な生活環境を守るために、ごみを「出さない・分ける・生かす」循環の仕組みを定着させ、公衆衛生の向上と持続可能な暮らしをともに築いていきます。

### ◆◆まちづくり指標（K G I）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①松山衛生事務組合への加入や中継施設の維持管理を通じて、し尿・浄化槽汚泥を含むごみ処理の安定的・適正な運用を行います。
- ②ごみ総排出量の削減やリサイクル率の向上を目指し、町独自の啓発活動や協議会と連携した取組を展開します。
- ③製品プラスチック収集開始に備え、分別収集の体制を整備し、住民への周知徹底を図ります。
- ④松山衛生e c oセンターを中心に、し尿や汚泥の処理を適切に行い、住民の健康と衛生的な生活を守ります。

## ◆◆成果指標（K P I）◆◆

3市3町での広域化議論参加回数	回	1 (R6年度)	>	1 (R12年度)
資源ごみリサイクル率	%	22.6 (R6年度)	>	22.7 (R12年度)
プラスチック分別啓発回数	回	1 (R6年度)	>	1 (R12年度)
適正処理率（し尿・浄化槽汚泥）	%	100 (R6年度)	>	100 (R12年度)

### 関連計画

松山ブロックごみ処理広域化基本計画／一般廃棄物（ごみ）処理基本計画／  
久万高原町分別収集計画／一般廃棄物処理実施計画／  
松山衛生e c oセンターし尿等運搬業務計画書





## 7 上下水道

### ◆◆方向性◆◆

施設の長寿命化と耐震化を計画的に進め、効率的な維持管理と健全な経営を重ねながら、将来にわたって町のみんが安心して水を使い続けられる環境を守ります。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の暮らしを支える水は、町内の水道施設から日々送り届けられています。町では遠隔監視システムを導入し、異常が起こればすぐに対応できる仕組みを整えてきました。老朽化した施設は、膜ろ過装置の導入や配水管の布設替を進め、安全な水を守ってきました。災害への備えとしても、応急給水タンクの備蓄や重要な管路の耐震化を進め、もしものときにも住民の命を支えられるよう努力しています。

また、子どもたちの社会科見学を通じて「水がどこから来ているのか」「排水した水質はどうなっているか」を伝えたり、広報紙やホームページで漏水防止を呼びかけたりと、水資源の大切さを町全体で共有してきました。こうした一步一步の積み重ねによって、私たちの暮らしは日々守られてきました。

しかし現実には、人口減少や職員数の減少で維持管理の負担は重くなり、老朽化する施設の更新需要は増え続けています。公共下水道や農業集落排水施設も、硫化水素の影響で劣化が徐々に進み、今後の大規模改修が避けられないところです。料金収入の減少と、維持更新にかかる多額の費用。この両方に向きあうことは、まちにとって大きな課題です。

だからこそ、今後も施設の長寿命化と耐震化を着実に進め、効率的な維持管理と健全な経営を両立させながら、将来にわたって安心・安全な上下水道の事業継続を目指します。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

接続する上下水道管路が耐震化された避難所等重要施設数（施設）

5  
(R6 年度)

19  
(R12 年度)

## ◆◆施策内容◆◆

- ①上下水道耐震化計画に基づき、避難所等重要施設に接続する上下水道管路の耐震化を計画的に進めます。老朽化した施設は地域の実情に応じて統廃合やダウンサイジングも含めた効率的な更新を実施します。
- ②DXの活用や民間委託を組み合わせ、適切な維持管理の継続、災害時の応急対応が可能な体制を構築します。
- ③事業の持続性を確保するための料金改定や起債・補助金の活用を進め、一般会計からの繰入金を適正水準に維持しつつ健全な事業経営を行います。

## ◆◆成果指標（KPI）◆◆

重要施設接続配水管の耐震化率	%	23.0 (R6 年度)	>	27.0 (R12 年度)
簡易水道事業料金回収率	%	72.9 (R6 年度)	>	82.7 (R12 年度)
下水道事業経費回収率	%	64.1 (R6 年度)	>	73.9 (R12 年度)

### 関連計画

久万高原町上下水道耐震化計画／久万高原町簡易水道事業経営戦略／  
久万高原町下水道事業経営戦略／久万高原町地域循環型社会形成推進地域計画





## 8 土地利用・住宅・公園

### ◆◆方向性◆◆

都市計画マスタープランや立地適正化計画に沿って土地や建物を効率的に活用し、町営住宅の適正管理、空き家の解消と利活用、公園の適切な維持管理を進めながら、安心して暮らし続けられる生活環境を守ります。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町では、町営住宅の改修を計画的に進め、安心して暮らせる住環境の維持に努めてきました。

しかしながら、地域によって入居率に偏りが見られることから、今後はスクラップ・アンド・ビルドの考え方に基づく再編が求められます。また、ニュータウン久万高原の分譲宅地はほぼ完売しており、子育て世代をはじめとする若年層の定住促進に向けて、新たな住宅用地や町営住宅の確保が急務となります。

一方で、全国的に増加傾向である空き家については、放置されれば倒壊や景観の悪化、不法投棄の温床となるなど、生活環境や防災面で深刻な影響を及ぼす恐れがあります。町内で確認されている空き家は約 2,000 戸に達しており、過去 5 年間で約 400 戸増加しています。今後は、空き家対策を地域の安全・景観保全の観点からも総合的に進める必要があります。

公園については、久万公園や笛ヶ滝公園などで長寿命化計画に基づく点検・改修を実施し、子どもから高齢者まで安心して利用できる環境の維持に努めています。今後も、こうした身近な憩いの場を守るための計画的な管理と更新が欠かせません。

### ◆◆まちづくり指標 (KGI) ◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づき、町内の土地・建物の適正利用を進め、持続可能なまちづくりを推進します。
- ②空き家等実態調査の結果を受け、老朽化した住宅については、除却の推進を進めます。一方、利活用が可能な住宅については、空き家バンク制度により、居住者の確保に努めます。
- ③町営住宅等の改修・更新を計画的に実施し、安全で快適な住環境を確保します。あわせて、耐用年数を過ぎて需要が見込めない住宅については用途廃止を行い、修繕費用の削減に努めます。空室が多い住宅については企業への貸出など別用途での活用策を検討します。
- ④公園施設長寿命化計画を更新し、遊具や設備の点検・改修を着実に進め、安全で安心して利用できる環境を維持します。

## ◆◆成果指標（K P I）◆◆

ニュータウン久万高原の分譲完了	%	91.0 (R6 年度)	»	100.0 (R12 年度)
老朽危険空き家の除却	件	9 (R6 年度)	»	12 (R12 年度)
空き家バンク成約件数	件	24 (R6 年度)	»	30 (R12 年度)
町営住宅改修件数	件	181 (R6 年度)	»	160 (R12 年度)
公園施設定期点検実施率	%	100.0 (R6 年度)	»	100.0 (R12 年度)

### 関連計画

久万高原町都市計画マスタープラン／久万高原町立地適正化計画／  
久万高原町地域住宅計画／町営住宅等長寿命化計画／久万高原町空き家等対策計画／  
公園施設長寿命化計画



## 9 防災・消防・救急

### ◆◆方向性◆◆

住民と行政が力を合わせ、災害や事故から命と暮らしを守り、安心して暮らせる体制を整えます。

### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の災害は、台風や豪雨による風水害が中心であり、急峻な地形に多くの土砂災害危険箇所を抱えることから、林地災害や急傾斜地崩壊の併発にも常に警戒が必要です。県下で最も広い町域を持つこの町では、高齢化により要配慮者や避難行動要支援者が多く、災害に強いまちづくりが大きな課題となっています。

これに対し、町内全域で自主防災組織を中心に、自助・共助の取組や訓練、応急手当の普及活動が行われています。情報伝達手段として防災行政無線や衛星電話の整備、町公式ラインやメールを活用した情報伝達が進められましたが、能登半島地震を教訓に、スターリンクを活用した情報伝達手段の構築や、避難所運営のマニュアル化を進め、災害時に自主防災組織主体の避難所運営が行えるよう準備しています。また、受援計画の見直しや孤立対策など課題を精査し、住民の安全・安心に努めています。

あわせて、常備消防である消防本部・署と、非常備消防である消防団の両輪によって、火災や各種災害、救急への対応体制も整えています。特に、消防業務を町単独で担える体制は久万高原町の強みであり、住民にとって大きな安心材料です。令和6年には火災7件、救急出動600件、救助出動62件が発生しており、消防は日常的に住民の命と暮らしを守る役割を果たしています。一方で、少子高齢化により消防団員の担い手不足は深刻化しています。そのため、消防団の組織自体の見直し、管轄にとられない応援出動のあり方、資機材の軽量化など効率的かつ確実な活動体制の維持を図り、消防力の低下を招かないための検討が必要です。

こうした中で、消防・救急体制の維持と強化、そして地域全体の防災力向上を図り、災害に強いまちを次世代へと受け継いでいくことが求められています。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆

防災・消防・救急に「満足」している住民の割合（％）

14.8  
(R6年度)

16.0  
(R12年度)

## ◆◆施策内容◆◆

- ①地域防災計画を定期的に見直し、国や県との連携を深めながら、多種多様な災害に備えた体制を整えます。
- ②防災行政無線やLPWA、衛星電話、スターリンクなど多様な情報伝達手段を活用し、災害時に確実に情報が届く仕組みを整備します。
- ③耐震補強済みの避難所や資機材を適切に管理し、感染症にも配慮した安全な避難環境を確保します。
- ④消防署・消防団の人員確保や車両・資機材更新を計画的に進め、救命士の育成や医療機関との連携を強化します。
- ⑤広域的な訓練や協定を通じ、他市町や民間企業と連携し、受援・応援体制を充実させます。

## ◆◆成果指標（K P I）◆◆

広域訓練への参加回数	回	4 (R6 年度)	»	4 (R12 年度)
防災行政無線の子局数	局	181 (R6 年度)	»	181 (R12 年度)
備蓄食料備蓄数	食数	4,600 (R6 年度)	»	4,600 (R12 年度)
消防団員数	人	546 (R6 年度)	»	600 (R12 年度)
常時運用救急救命士数	人	11 (R6 年度)	»	12 (R12 年度)
民間事業者との災害協定数	事業者	24 (R6 年度)	»	30 (R12 年度)
福祉避難所の確保数	事業者	10 (R6 年度)	»	12 (R12 年度)

関連計画

久万高原町地域防災計画／久万高原町国土強靱化計画／久万高原町国民保護計画



## 10 交通安全・防犯

### ◆◆方向性◆◆

交通事故のない安全な道と、犯罪に強い地域づくりを進め、住民が安心して暮らせるまちを目指します。

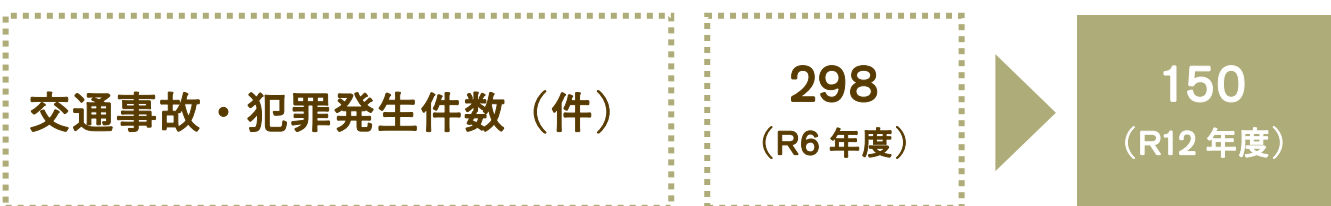
### ◆◆現状と課題◆◆

久万高原町の道は、通学路や買い物の道から、曲がりくねった山間の道路までさまざまです。春や秋の交通安全運動では人身事故0件を続けるなど、大きな成果を上げてきましたが、高齢ドライバーが多い久万高原ならではの課題も残っています。安全運転支援装置の利用はまだ少なく、カーブミラーやガードレールの設置も進めてきたものの、すべての危険を解消するには限界があります。

また、地域の夜を照らす防犯灯や、駐在所だより・防犯えひめを通じた啓発活動によって、防犯意識は少しずつ高まってきました。警察署や防犯協会と連携した特殊詐欺防止の呼びかけや見回り活動も行われています。しかし、高齢者世帯を中心に「まだ不安が残る」という声もあり、防犯灯や防犯カメラ設置への要望は年々増えています。

だからこそ、町全体で力を合わせ、事故も犯罪も未然に防ぐ仕組みを育てていかなければなりません。安全で静かな暮らしを「当たり前」として守り抜く体制と機運を高めていきます。

### ◆◆まちづくり指標（KGI）◆◆



## ◆◆施策内容◆◆

- ①高齢者が安心して移動できる環境を整えます。
- ②カーブミラーやガードレール、防護柵の設置・更新を進め、事故の危険を未然に防ぎます。
- ③防犯カメラや防犯灯の設置支援を行い、犯罪を未然に防ぐ体制を整備します。
- ④久万高原警察署や久万高原地区防犯協会と連携し、駐在所だより、防犯えひめ、防災無線などを活用して啓発を継続するとともに、見回りや声かけ、交通安全運動等を強化します。

## ◆◆成果指標（K P I）◆◆

防犯カメラの設置支援件数	件	0 (R6 年度)	»	7 (R12 年度)
防犯灯の設置支援件数	件	50 (R6 年度)	»	50 (R12 年度)
交通安全運動の実施回数	回	18 (R6 年度)	»	20 (R12 年度)

関連計画	なし
------	----

















# 資料編

# SDGs と施策の関連

施策体系			貧困	飢餓	保健	
将来像	5つの大樹	施策				
森と人が編む、恵みの環（わ）——ウツドスクエア久万高原——	きづく <b>築</b>	1 行財政運営				
		2 広域行政				
		3 DX				
		4 広報・広聴				
		5 コミュニティ				
	さかえる <b>栄</b>	1 農業振興			●	
		2 農業基盤整備			●	
		3 林業				
		4 商工				
		5 観光				
	しおり <b>栞</b>	1 地域医療				●
		2 地域福祉	●	●	●	
		3 子育て支援	●		●	
		4 高齢者支援			●	
		5 障がい者支援			●	
		6 健康づくり			●	
	うえる <b>植</b>	1 学校教育				
		2 学校給食			●	●
		3 生涯学習				
		4 スポーツ・レクリエーション				●
		5 文化（財）活動				
		6 人権の尊重				
		7 男女共同参画				
	かまえる <b>構</b>	1 環境美化・保全				
		2 再生可能エネルギー				
		3 移住・定住・関係人口増進				
		4 公共交通・地域交通				
		5 道路				
		6 生活環境				
		7 上下水道				
		8 土地利用・住宅・公園				
		9 防災・消防・救急				
		10 交通安全・防犯				

### SDGsにおける 17 の目標

教育	ジェンダー	水・衛生	エネルギー	成長・雇用	技術革新	不平等	都市	生産・消費	気候変動	海洋資源	陸上資源	平和	実施手段
													
												●	●
							●						●
				●	●		●						●
												●	●
							●						●
				●	●			●			●		
					●						●		
				●	●						●		
				●	●		●	●					●
							●						●
●	●					●						●	
						●	●						
				●		●	●						
							●						
●							●						
●							●						
●							●						
●							●						
							●					●	
	●					●							
									●		●		
			●						●				
		●					●	●		●			
		●					●			●			
							●						
							●		●				
							●					●	

# 久万高原町総合計画審議会

久万高原町総合計画審議会委員名簿

(委員任期) 令和7年7月23日～令和8年3月31日

No.	氏名	所属	役職	
1	玉泉 豊	久万高原町社会福祉協議会	会長	○
2	菅 重雄	久万高原町農業委員会	会長	
3	森 博	久万高原町議会総務文教厚生常任委員会	委員長	
4	阪本 雅彦	久万高原町議会産業建設常任委員会	委員長	
5	中川 邦彦	久万高原町教育委員	委員	
6	長谷 薫	久万高原町教育委員	委員	
7	上場 篤史	久万高原町PTA連合会	会長	
8	和田 有司	松山市農協久万支所支所長	支所長	
9	大野 盛隆	久万広域森林組合	代表理事組合長	
10	高山 哲也	久万高原町商工会	会長	◎
11	竹森 洋輔	久万高原町観光協会	会長	
12	露口 光隆	伊予銀行久万支店	支店長	
13	薬師神 伊久夫	愛媛銀行久万支店	支店長	
14	桐木 陽子	松山東雲女子大学	副学長	
15	土居 千枝	久万高原町商工会女性部	部長	
16	丹 亮輔	久万高原町青年農業者連絡協議会	会長	
17	村上 裕美	子育て支援団体	代表	
18	一色 伸二	愛媛新聞社営業局営業開発部部长	オブザーバー	
19	渡部 仁司	松山公共職業安定所所長	オブザーバー	
20	大寺 宏典	久万高原町観光協会(地域活性化企業人)	オブザーバー	

◎審議会会長

○審議会副会長

(順不同・敬称略)

(趣旨)

第1条 この条例は、久万高原町総合計画審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 審議会は、町長の諮問に応じて久万高原町総合計画の策定その他実施に関し必要な調査及び審議を行う。

(組織)

第3条 審議会は、委員20人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者について町長が任命する。

- (1)町議会の議員4人以内
- (2)町教育委員会の教育長又は委員4人以内
- (3)町農業委員会の委員4人以内
- (4)町の区域内の公共的団体の役員及び職員4人以内
- (5)学識経験を有する者その他住民4人以内

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任することができる。2補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 審議会に会長を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会議を総理し、審議会を代表する。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指定する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議は、会長が招集する。

2 審議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に図って定める。

附則

この条例は、平成16年8月1日から施行する。

附則（平成17年12月28日条例第110号）

この条例は、平成18年4月1日から施行する。

附則（平成21年3月19日条例第7号）抄

(施行期日)

1 この条例は、平成21年4月1日から施行する。

附則（平成27年3月18日条例第2号）

(施行期日)

第1条 この条例は、平成27年4月1日から施行する。

(旧教育長に関する経過措置)

第2条 この条例の施行の際現に在職する地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(平成26年法律第76号。以下「改正法」という。)附則第2条の規定による改正前の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(昭和31年法律第162号。以下この条において「旧法」という。)第16条第1項の教育長(以下「旧教育長」という。)は、その教育委員会の委員(以下「委員」という。)としての任期中に限り、なお、従前の例により在職するものとする。

2 前項の場合において、この条例による改正後の久万高原町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(平成16年条例第39号)、久万高原町特別職報酬等審議会条例(平成16年条例第42号)、久万高原町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例(平成16年条例第43号)、久万高原町農村環境改善センター条例(平成16年条例第140号)若しくは久万高原町総合計画審議会3/3条例(平成16年条例第165号)の規定又は久万高原町教育長の給与及び勤務時間等に関する条例(平成16年条例第45号)の廃止にかかわらず、なおその効力を有する。

3 前項の場合において、旧教育長の委員としての任期が満了する日(当該満了する日前に旧教育長が欠けた場合にあつては、当該欠けた日)において旧法第12条第1項の教育委員会の委員長である者の当該委員長としての任期は、旧法第12条第2項の規定にかかわらず、その日に満了する。

(新たに任命される委員の任期の特例)

第3条 施行日から4年を経過するまでの間に任命される委員の任期は、改正法附則第4条の規定により、新法第5条第1項の規定にかかわらず、当該委員の任期の満了の期日が特定の年に偏ることがないように、1年以上4年以内で町長が定めるものとする。

附則(平成29年3月22日条例第2号)抄

(施行期日)

1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。



---

発行 愛媛県久万高原町

発行年月 令和8年3月

〒791-1201

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万212番地

TEL: 0892-21-1111 (代表)

FAX: 0892-21-2860

---

